

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	観光資源整備事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費			事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	品川ならではの観光コンテンツを充実する
総合実施計画	P47	実施計画事業	水辺を活用したにぎわい創出
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成16年度 ~	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区内の多彩で魅力ある観光資源を活用した「都市型観光」の展開により、来街者の増加とにぎわい創出を図る。
【概要】	◆観光関連団体との連携、支援により”オールしながわ”での観光振興・観光まちづくりを推進していく。 ◆しながわ観光の魅力である名所旧跡や水辺、公園、アクセスの良さなど多様なコンテンツを関係団体や自治体との連携イベント、PRキャラクターの活用等により付加価値を高めていく。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
しながわ水辺の観光フェスタ来場者数	人	目標	1,500	39,000	39,000	80,000	80,000	しながわ水辺の観光フェスタの各イベントの延べ来場者数
		実績	1,772	67,410	86,740		令和10年度	
しながわ観光フェア来場者数	人	目標	1,000	3,000	6,200	6,200	7,000	西小山駅前で開催する区主催「にしこやまつり」の来場者数
		実績	1,000	6,000	6,300		令和10年度	
目黒川イルミネーション来場者数	人	目標	590,000	590,000	600,000	900,000	920,000	実行委員会と協力して運営する目黒川イルミネーションの来場者数
		実績	610,000	600,000	900,000		令和10年度	
ハタチの龍馬動画視聴総数	回	目標	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	ハタチの龍馬のアニメ・自治体コラボ動画の視聴総数
		実績	83,000	225,000	150,000		令和10年度	

取組内容・実績

◆水辺各地区（東品川、天王洲、勝島、五反田、品川宿、八潮）でイベントを行う「しながわ水辺観光フェスタ」を10月に実行委員会と共催し、水辺の活性化・PRを図った。
 ◆西小山（荏原地区）での区主催イベントや秋季の大型地域イベントへの観光PRブースの出展を行う「しながわ観光フェア」を実施し、荏原地区への誘客、地域イベント来場者への観光PRを図った。
 ◆「目黒川イルミネーション」を11月～1月の60日間、実行委員会との協働で実施し、地域の廃食油を活用した100%自家発電で点灯させ、誘客およびPRを図った。
 ◆「ハタチの龍馬」は、地域イベントへの着ぐるみ出演に加えて、X（旧Twitter）やYouTubeにより区内外に広く品川区の魅力発信を行った。

指標の達成状況

◆「しながわ水辺の観光フェスタ」、「しながわ観光フェア」、「目黒川イルミネーション」については、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことを受け、外出機運のさらなる高まりにより、目標値を大幅に超える来場者が訪れた。
 ◆「目黒川イルミネーション」については、SDGsを推進する取組みによりメディアへの露出が増えたことで、来場者の増加につながった。
 ◆「ハタチの龍馬」については、高知県および福井県坂井市のご当地キャラクターと連携したPR動画の制作等を行ったことで、視聴数の増加につながったことに加えて、地方メディアにも取り上げられた。

必要性・有効性

◆「しながわ水辺の観光フェスタ」および「しながわ観光フェア」については、来場者数が増加しており、開催エリアのPRおよび賑わい創出に資する結果を得られている。
 ◆「目黒川イルミネーション」は、メディアで多く取り上げられ、来場者数も増加していることから、冬季の観光資源として有効である。
 ◆「ハタチの龍馬」は、地域イベントへの出演やSNSの発信を重ねてきたことで、区民の認知度や訴求力が年々高くなっていると感じられる。また、連携先自治体との交流のシンボルとなっており、必要性が高い。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.0%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	68,464	68,258	0	206	99.7%
使用料及び賃借料	30	18	0	12	60.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	96,263	75,318	0	20,945	78.2%
その他	966	705	0	261	73.0%
計	165,723	144,299	0	21,424	87.1%

決算額の主な内訳

◆委託料 68,258千円（しながわ観光フェア事業委託、イルミネーション設置事業委託、ハタチの龍馬PR事業委託他）
 ◆負担金補助及び交付金 75,318千円（しながわ水辺の観光フェスタ分担当、しながわクルーズ事業負担金、イルミネーション事業負担金他）

効率性

◆地域団体と共催しているイベント事業については、予算規模が大きいため、経費の精査が必要である。
 ◆負担金補助及び交付金については、補助金申請があると見込んでいた事業が中止となった影響により、執行率は78%となった。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	13,212	11,342	-1,870
物件費	106,779	68,381	-38,398
うち委託料	106,562	68,258	-38,304
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	53,415	75,318	21,903
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	1,209	2,116	907
その他	0	0	0
小計 D	174,616	157,156	-17,460
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-174,616	-157,156	17,460
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-174,616	-157,156	17,460
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-174,616	-157,156	17,460

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	761	904	143
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	761	904	143
その他	0	0	0
固定負債 S	7,699	5,690	-2,009
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	7,699	5,690	-2,009
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	8,461	6,594	-1,867
正味財産の部	-8,461	-6,594	1,867
正味財産の部 合計 U	-8,461	-6,594	1,867
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 8.3% 令和5年度: 8.6%
 ◆事業の多くを委託もしくは共催により実施しているため、物件費（委託料）の割合が高くなっている。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
 ◆B 継続する事業 ◆計画・規定どおり
 【説明】
 ◆区が推進する水辺に係る事業については、適宜、改善を図りながら積極的に推進していく。
 ◆その他の事業は、事業方法や規模等のブラッシュアップを図り、引き続き実施する。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
 ◆C 改善・見直しする事業 ◆取組みの一部廃止
 【説明】
 ◆水辺のブランディングに向け効果的な観光施策を取捨選択したうえで、都市ブランディングとの一体的な打ち出しを検討する。
 ◆地域資源活性化事業補助金については、集客が見込めるイベントの立上げを支援し地域の賑わい創出と区への来訪者増加を図るという役割を終えたため、令和6年度をもって廃止する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	観光情報発信事業					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	都市型観光プラン推進事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当	

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	観光情報の集約と多様な情報発信をする
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成16年度 ~	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】

- ◆来訪意欲が湧き、更新頻度が高く鮮度の良い情報を発信し、来訪者の増加を図る。
- ◆区のイベント、スポット、商店等の多岐にわたる観光情報を様々な媒体を活用して幅広くPRする。

【概要】

- ◆観光に係る各種情報を取材し、サイトやSNS等の情報媒体で発信する。
- ◆鉄道事業者と連携した観光PRや情報取得の主流となっているYouTubeに配信する動画の制作、広告の運用を行う。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
しながわ観光協会サイト 閲覧数(年間)	件	目標	2,000,000	2,100,000	2,200,000	2,300,000	2,700,000	しながわ観光協会サイトの閲覧数 (年間)
		実績	1,512,728	2,413,980	2,736,915		令和10年度	
YouTube動画の視 聴総回数(累計)	回	目標		120,000	80,000		令和5年度	YouTubeを活用した情報発信 事業で制作した動画の視聴総回数
		実績		148,185	87,537			
		目標						
		実績						

取組内容・実績

- ◆しながわ観光協会のサイトで観光スポットやイベント等の情報を掲載した。
- ◆観光PR動画3本をYouTubeに投稿し、区内外に広く品川区の魅力発信を行った。
- ◆乗降客数が多い都内駅へのパンフレットの配架やデジタルサイネージへの観光PR動画の放映により、鉄道利用者へ品川区の魅力発信を行った。

指標の達成状況

- ◆しながわ観光協会サイト閲覧数については、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類に移行された影響により、外出機運やイベントが急増し、目標値を上回った。
- ◆YouTube動画の視聴総回数については、注目度の高いスポットやコンテンツに注目した内容にしたことにより、年度計画を達成した。

必要性・有効性

- ◆区への訪問を促すには、最新で魅力ある情報を継続的に発信する必要がある。
- ◆区内の鉄道網は充実しており、区への来訪手段である鉄道を活用した情報発信は有効な手段である。
- ◆YouTube動画は一定の成果を得られたと考えるが、同種の動画は飽和状態であり、効果的にPRできていないか見直しが必要である。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	250	183	0	67	73.2%
役員費	100	26	0	74	26.0%
委託料	13,487	13,487	0	0	100.0%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	13,837	13,697	0	140	99.0%

決算額の主な内訳

- ◆委託料 13,487千円(しながわ観光情報管理運営事業委託、YouTubeを活用した情報発信事業委託、鉄道会社を活用した情報発信事業委託)

効率性

- ◆類似の観光情報が飽和しているため、差別化が難しい手法については見直しが必要である。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	4,204	3,581	-623
物件費	16,748	13,697	-3,051
うち委託料	16,650	13,487	-3,163
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	0	0	0
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	403	705	302
その他	0	0	0
小計 D	21,355	17,982	-3,373
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-21,355	-17,982	3,373
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-21,355	-17,982	3,373
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-21,355	-17,982	3,373

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	254	301	47
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	254	301	47
その他	0	0	0
固定負債 S	2,566	1,897	-669
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	2,566	1,897	-669
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	2,820	2,198	-622
正味財産の部	-2,820	-2,198	622
正味財産の部合計 U	-2,820	-2,198	622
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 21.6% 令和5年度: 23.8%
- ◆事業の多くを委託により実施しているため、物件費(委託料)の割合が多い。

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆C 改善・見直しする事業 ◆取組みの一部廃止
- 【説明】
- ◆費用対効果が小さい情報発信事業については、見直しを行う。

(2) 最終評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆C 改善・見直しする事業 ◆取組みの一部廃止
- 【説明】
- ◆所管評価に同意する。

令和6年度 事務事業評価シート (令和5年度実施事業)

小事業名	観光サービス充実事業				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	文化観光費		事業	都市型観光プラン推進事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	多様な協働・連携で品川魅力をさらに向上する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成16年度 ~	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

【目的】	◆しながわ観光の魅力を活かして、楽しんでもらうためのサービス整備、観光案内所を中心とした地域PR環境およびコンテンツの構築を図る。
【概要】	◆パンフレットや観光大使による観光案内、観光案内所の整備や支援により、来訪者へのサービス環境を構築する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
観光案内所来館者数	人	目標	46,000	47,000	51,000	45,000	53,000	各観光案内所の合計来館者数
		実績	32,005	49,382	43,471		令和10年度	
観光パンフレット作成数	部	目標	150,000	150,000	150,000	155,000	175,000	観光パンフレットの新規作成数および増刷数の合計値
		実績	151,000	140,000	158,700		令和10年度	
しながわ観光大使のデザイン使用数	件	目標	35	40	45	50	70	チラシ等へのしながわ観光大使のデザイン使用数
		実績	38	53	69		令和10年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績

◆観光案内所（しながわPLAZA、info&cafe SQUARE、品川宿交流館、南品川桜河岸まちなか観光案内所）を年間を通して、運営（運営補助含む）し、来街者に観光情報を案内した。
 ◆観光パンフレットやマップの新規制作、増刷を行い、来街者への情報発信を図った。
 ◆しながわ観光大使「シナモロール」のイラストの活用、SNSでの情報発信、地域イベントへの出演により、賑わい作りと集客に寄与した。

指標の達成状況

◆観光案内所来館者数については、令和4年度に実施したinfo&cafe SQUAREで集客イベントを実施しなかった関係で、前年度を下回った。
 ◆観光パンフレット作成数は、外出需要の高まりを受けて、年次計画を達成出来た。
 ◆しながわ観光大使「シナモロール」の高い知名度により、チラシ等へのデザイン使用件数は毎年増加している。

必要性・有効性

◆観光案内所の運営および観光パンフレット作成は、来館者数、作成数（配布数）と成果が数字として表れ、需要を把握できる事業であるため、需要が多い場合は必要と考える。なお、観光パンフレットは、インターネット上でも閲覧可能だが、手に持って複数ページを手軽に確認可能な紙媒体の需要は高い。
 ◆しながわ観光大使「シナモロール」のデザインをチラシ等に活用することにより、手に取ってもらえる可能性が高くなるため、有効性は高い。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	188	99	0	89	52.7%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	28,143	28,102	0	41	99.9%
使用料及び借賃料	4,180	3,960	0	220	94.7%
工事請負費	300	127	0	173	42.3%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	39,804	32,580	0	7,224	81.9%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	72,615	64,867	0	7,748	89.3%

決算額の主な内訳

◆委託料 28,102千円（観光パンフレット等作製・増刷事業委託、しながわ観光大使PR事業委託他）
 ◆負担金補助及び交付金 32,580千円（観光協会運営補助金、info&cafe SQUARE運営分担金他）

効率性

◆構成する事業の多くは観光案内所への運営補助金や負担金であり、義務的な経費であるため、大幅な見直しは難しい。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)	勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	9,249	7,878	-1,371	流動資産 0	0	0	0
物件費	32,486	32,111	-375	収入未済	0	0	0
うち委託料	28,057	28,102	45	不納欠損引当金	0	0	0
行政維持補修費	51	176	125	その他	0	0	0
行政扶助費	0	0	0	固定資産 P	26,856	25,992	-864
費用補助費等	41,112	32,580	-8,532	土地	7,150	7,150	0
費用減価償却費	864	864	0	建物	19,706	18,842	-864
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	887	1,552	665	重要物品	0	0	0
その他	2,002	0	-2,002	インフラ資産	0	0	0
小計 D	86,651	75,161	-11,490	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	26,856	25,992	-864
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	558	663	105
都支支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	558	663	105
その他	1,161	0	-1,161	その他	0	0	0
小計 E	1,161	0	-1,161	固定負債 S	5,646	4,173	-1,473
行政収支差額 H=E-D	-85,490	-75,161	10,329	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給付引当金	5,646	4,173	-1,473
通常収支差額 J=H+I	-85,490	-75,161	10,329	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	6,205	4,836	-1,369
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	20,652	21,157	505
特別収支差額 M=L-K	0	0	0	正味財産の部 合計 U	20,652	21,157	505
当期収支差額 N=J+M	-85,490	-75,161	10,329	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	26,856	25,992	-864

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:11.7% 令和5年度:12.5%
 ◆観光案内所の運営補助が含まれているため、補助費等(補助金)の割合が大きい。
 ◆令和4年度より補助金の規模を見直したため、補助費等(補助金)が大きく減少している。

6 評価

(1) 所管評価	【評価結果・今後の取組の方向性】 ◆B 継続する事業 ◆現状維持 【説明】 ◆本小事業を大部分を占める補助金について、その成果を的確に把握し、引き続き実施する。
(2) 最終評価	【評価結果・今後の取組の方向性】 ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善 【説明】 ◆パンフレットについては、類似するパンフレットの統合および必要な部数を精査し、作成・増刷する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	外国人観光客誘致事業					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	都市型観光プラン推進事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当	

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	観光情報の集約と多様な情報発信をする
総合実施計画	P48	実施計画事業	外国人観光客への観光情報発信
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成16年度 ~	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】

- 外国人観光客にしながら観光の魅力PRにより、旅先に選ばれることを目指す。
- ショートトリップや旬なイベント情報の提供により快適な滞在環境の整備、口コミや情報発信によるリピーターの獲得を目指す。

【概要】

- 訪日観光客向けのWebサイトやSNS等を通じて、イベント、施設情報を多言語で発信する。
- 区内ゲストハウスを活用したツアーや羽田空港周辺自治体との連携事業を実施する。
- 観光案内標識の盤面更新や修復を必要に応じて実施する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
区内外国人宿泊数	泊	目標	330,000	330,000	330,000	340,000	380,000	区内への外国人の延べ宿泊日数(年間)【観光庁調査】
		実績	53,000	141,000	445,000		令和10年度	
海外向けSNS等閲覧数	件	目標	20,000	500,000	1,900,000	1,950,000	2,150,000	海外に向けて発信したSNS投稿やサイト記事、動画の閲覧数
		実績	3,107	1,862,749	1,345,938		令和10年度	
外国人観光客向けツアー参加人数	人	目標	20	30	60	65	85	海外からの観光客を主な対象としたゲストハウストツアーの参加人数
		実績	20	55	64		令和10年度	
羽田空港周辺エリア連携事業実施回数	回	目標	1	1	1	1	1	羽田空港周辺の大田区、川崎市と連携したインバウンド向け事業の実施回数
		実績	1	1	1		令和10年度	

取組内容・実績

- 訪日観光客向けのサイトやインフルエンサーを通じて、アジアを主な対象に観光情報を動画やSNSにより発信した。
- 品川周辺の地域行事や体験に参加する外国人向けツアーを10回実施した。
- 羽田空港周辺の大田区、川崎市と連携して、タイで開催された旅行博覧に共同ブースを出展し、同エリアの観光情報を発信した。

指標の達成状況

- 新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、海外からの旅行者数が大幅減となっていたが、今後は右肩上がりで伸びていくと思われる。
- 海外への観光情報については、様々な自治体や企業が強化しており、競合が増えていることから前年度実績を下回ったと思われる。

必要性・有効性

- 直接的な効果を測りづらい事業であるが、海外からの観光客による消費規模は大きく、羽田空港や品川駅からの好アクセスを考慮すると、投資する価値があるものと考えられる。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.0%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	11,143	9,793	0	1,350	87.9%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	750	486	0	264	64.8%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	1,250	1,247	0	3	99.8%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	13,143	11,525	0	1,618	87.7%

決算額の主な内訳

- ◆委託料 9,793千円 (Web媒体による情報発信事業委託、ゲストハウストツアー事業委託)

効率性

- ◆委託料については、観光案内標識の現況調査事業の大きな入札落差が出た影響を受け、執行率が87%となった。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	4,204	3,581	-623
物件費	10,068	9,793	-275
うち委託料	9,012	9,793	781
維持補修費	726	486	-240
行政扶助費	0	0	0
費用補助費等	1,247	1,247	0
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	403	705	302
その他	0	0	0
小計 D	16,648	15,811	-837
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-16,648	-15,811	837
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-16,648	-15,811	837
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-16,648	-15,811	837

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 27.7% 令和5年度: 27.1%
- ◆事業の多くを委託により実施しているため、物件費(委託料)の割合が大きい。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆D 完了・廃止する事業 ◆事業の廃止

【説明】

- ◆令和5年度行政評価でのD評価を受けて、不要な事務事業の廃止、必要な事務事業の再編を行う。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆D 完了・廃止する事業 ◆事業の廃止

【説明】

- ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	フィルムコミッション事業					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	フィルムコミッション事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当	

1 基本情報

長期基本計画	P48	政策の柱	まちの魅力を活かした都市型観光の推進
		基本的な考え方	観光情報の集約と多様な情報発信をする
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成29年度 ~	関連する個別計画等	品川区都市型観光プラン
根拠法令要綱			

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆映画やドラマ等の映像制作会社の撮影場所探しへの支援により、作品に区を登場させる。
◆区が登場する作品のPRによりロケ地訪問を促す。
【概要】
◆映画やドラマ等の撮影事業者および作品の視聴者をターゲットとしたサイトに、ロケ地情報や区関連作品のコラム記事等を掲載する。
◆区のフィルムコミッション、区内ロケ地のPRとなる動画を制作する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
撮影問い合わせ対応件数	件	目標	55	60	65	70	90	事業者からの映画やドラマ等の撮影に関する問い合わせの対応件数 令和10年度
		実績	68	57	78			
フィルムコミッションサイト閲覧数(年間)	件	目標	123,000	124,000	125,000	126,000	130,000	品川区フィルムコミッションPRサイト「しなロケ」の閲覧数(年間) 令和10年度
		実績	123,882	124,831	164,242			
PR動画視聴数	回	目標	40,000	60,000	70,000		120,000	フィルムコミッションPR動画(8本)の視聴数(延べ) 令和10年度
		実績	52,477	62,850	93,000			
		目標						
		実績						

取組内容・実績

- ◆フィルムコミッションサイトに掲載した情報を契機に、テレビ事業者等から映画やドラマ等の撮影に関する問い合わせを78件受けた。
- ◆映画やドラマ等の撮影事業者および作品の視聴者をターゲットとしたサイトに、ロケ地情報や区関連作品のコラム記事等を掲載した。
- ◆区のフィルムコミッション、区内ロケ地のPRとなる動画を1種制作した。

指標の達成状況

- ◆撮影問い合わせ対応件数については、新規の問い合わせに加え、過去に対応した撮影事業者からのレポート相談や撮影事業者間の口コミにより、増加傾向である。
- ◆一般的なフィルムコミッションサイトは撮影事業者を対象としているため、主にロケ地情報のみを掲載していることが多い。区では撮影事業者だけでなく、一般層を対象として定め、ロケ地情報の掲載や更新に加えて、品川区内をロケ地とした作品のコラム記事等のコンテンツを拡充し続けてきた結果、閲覧数がサイト立ち上げ時から年々増えている。
- ◆PR動画については、フィルムコミッションサイトへの関連記事の掲載により、ターゲットへの視聴につながられた。

必要性・有効性

- ◆サイトについては、閲覧数が多く、同類のサイトでは高い検索順位を誇り、需要を取り込めている。
- ◆ロケ地巡りの需要は引き続き高く、ロケ地の切り口から区内への誘客を促進させる本事業は有効と考える。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.0%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	16,180	16,180	0	0	100.0%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	16,180	16,180	0	0	100.0%

決算額の主な内訳

- ◆委託料 16,180千円(フィルムコミッションPR事業委託)

効率性

- ◆コストを踏まえたブラッシュアップを図っていく。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	6,727	5,729	-998
物件費	16,230	16,180	-50
うち委託料	16,230	16,180	-50
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	0	0	0
費用減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	645	1,128	483
その他	0	0	0
小計 D	23,602	23,038	-564
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-23,602	-23,038	564
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-23,602	-23,038	564
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-23,602	-23,038	564

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	406	482	76
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	406	482	76
その他	0	0	0
固定負債 S	4,106	3,035	-1,071
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	4,106	3,035	-1,071
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	4,512	3,517	-995
正味財産の部	-4,512	-3,517	995
正味財産の部合計 U	-4,512	-3,517	995
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:31.2% 令和5年度:29.8%
- ◆PRに関する業務は委託により実施しているため、物件費(委託料)の割合が大きい。

6 評価

(1)所管評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆D 完了・廃止する事業 ◆事業の廃止
- 【説明】
- ◆令和5年度行政評価でのD評価を受けて、事業の見直しを図る。

(2)最終評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆D 完了・廃止する事業 ◆事業の廃止
- 【説明】
- ◆所管評価に同意する。

令和6年度 事務事業評価シート (令和5年度実施事業)

小事業名	区民レクリエーション					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化活動支援事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当	

1 基本情報

長期基本計画	P40	政策の柱	伝統・文化を継承し親しむ環境づくり
		基本的な考え方	区民の文化・芸術活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成 元年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	社会教育法、品川区文化芸術・スポーツ振興関係共催事業分担金交付要綱、品川区文化芸術関係団体との共催事業に対する会場提供に関する要綱		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区民の活動団体を中心とした連盟等と共催事業を展開することで、区民の参加を促進して文化振興を図る。
【概要】	◆区民レクリエーション大会：区民の活動の活発化と参加の促進を図るため、将棋・囲碁・合唱等の連盟との共催により、春季・秋季大会を開催する。 ◆区民いけばな展：区民の活動の活発化と参加の促進を図るため、品川区華道茶道文化協会との共催により年1回開催する。 ◆品川区民コンサート：品川区民管弦楽団の演奏を広く区民の皆様楽しんでいただく機会として、品川音楽文化協会との共催により年2回開催する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
区民レクリエーション大会の参加者数	人	目標	2,000	1,000	2,000	2,000	2,000	区民レクリエーション大会(吟剣・将棋・囲碁・合唱・短歌・麻雀)の参加者数
		実績	253	1,000	1,083		令和11年度	
区民いけばな展の入場者数	人	目標	550	400	550	550	550	区民いけばな展(2日間)の入場者数
		実績	0	712	527		令和11年度	
品川区民コンサートの入場者数	人	目標	1,500	1,050	1,050	1,500	1,500	品川区民コンサート(春・秋)の入場者数
		実績	522	1,036	1,315		令和11年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績

◆区民レクリエーション大会は、各活動団体と共催で吟剣詩舞道、将棋、囲碁、合唱の大会を春・秋季に行い、ジュニア囲碁フェスタおよび麻雀大会を年1回行った。また、短歌大会については、共催団体から辞退の申出があったため、開催しなかった。
◆区民いけばな展は、品川華道茶道文化協会と共催で、10月にきゅりあんイベントホールにて開催した。また、お茶席の設置といった新たな取組みを実施し、事業のマンネリズム防止を図った。
◆品川区民コンサートについて、春季は荏原平塚総合区民会館で行ったことで例年より座席数が減少したが、秋季は改修を終えた総合区民会館で開催したため、例年どおりの座席数を確保できた。

指標の達成状況

◆区民レクリエーション大会は、指標を達成できていないが、参加者数は前年度より微増した。
◆区民いけばな展は、令和4年度はまちぐるみ文化イベントと同時開催をし、参加者数は指標を大きく上回ったが、単独開催となった令和5年度では、わずかながら指標人数に達することができなかった。
◆品川区民コンサートは、春季は総合区民会館改修工事(令和4年2月～令和5年9月)の影響により、座席数の少ない荏原平塚総合区民会館に会場変更したことで参加者数が減少したが、秋季は改修を終えたきゅりあんで開催し座席数を確保できたため、指標人数を達成することができた。

必要性・有効性

◆区民の活動団体による文化・芸術の魅力を伝える発表の場が求められており、区民レクリエーションはその役割を担っている。
◆本事業は、各団体の諸活動の支援を目的としており、サークル活動による子どもや高齢者の「生きがい」「夢」「つながり」を見つけることのきっかけとなっている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	404	367	0	37	90.8%
役務費	39	33	0	6	84.6%
委託料	0	0	0	0	0.0%
使用料及び賃借料	563	535	0	28	95.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	3,681	3,570	0	111	97.0%
その他	3	3	0	0	100.0%
計	4,690	4,508	0	182	96.1%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 367千円(賞状用紙、参加賞、大会トロフィー)
- ◆使用料及び賃借料 535千円(合唱祭、将棋大会、いけばな展会場・設備使用料)
- ◆負担金補助及び交付金 3,570千円(品川区吟剣詩舞道連盟他運営負担金、区民コンサート負担金)

効率性

- ◆執行率は96.1%と予算内において効率的に執行している。
- ◆補助金の予算額が過大にならないよう引き続き精査する。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	8,408	7,161	-1,247
物件費	725	938	213
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	3,631	3,570	-61
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	806	1,411	605
その他	0	0	0
小計 D	13,570	13,080	-490
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-13,570	-13,080	490
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-13,570	-13,080	490
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-13,570	-13,080	490

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	508	602	94
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	508	602	94
その他	0	0	0
固定負債 S	5,133	3,794	-1,339
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	5,133	3,794	-1,339
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	5,640	4,396	-1,244
正味財産の部	-5,640	-4,396	1,244
正味財産の部 合計 U	-5,640	-4,396	1,244
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特微的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 67.9% 令和5年度: 65.5%
- ◆令和5年度について、行政費用の約6割は旅費等含む給与関係費である。
- ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
【説明】
◆いけばな展では、ワークショップ(令和4年度)やお茶席の設置(令和5年度)といった新規の取組みを行い、参加者を楽しんでもらう工夫を行っている。他の事業でも実施方法等の新たな工夫を図っていく。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
【説明】
◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	各種団体支援					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化活動支援事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略課担当	

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱 基本的な考え方	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり 多様な活動を支援する
総合実施計画	実施計画事業	-	
	現況 必要事業量	-	
事業期間	昭和47年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	自主グループ講師派遣実施要領 (社会教育法第11条2)による社会教育関係団体への援助)、品川区文化芸術・スポーツ振興関係事業委託要綱、区民プロデュース型講座・講演会開設実施要領		

2 事業の目的・概要

目的・概要	<p>【目的】</p> <p>◆生涯学習社会の実現を図るため、団体の自主的な活動を支援する。</p> <p>【概要】</p> <p>◆社会教育関係団体の登録 登録制度を設け、施設優先申込みや使用料の減免等、団体の育成と発展に資するために必要な支援を行う。</p> <p>◆自主グループ講師派遣 活動の充実を図るため、自主グループが行う学習会の講師謝礼の一部を区が負担する。</p> <p>◆区民プロデュース型講座 区民を中心とした団体が文化・高齢者の福祉などの内容で広く区民を対象に企画した講座・講演会の開催を支援する。</p> <p>◆生涯学習ボランティア保険 社会教育関係団体 (青少年)等の指導者・育成者などを対象に、保険料を負担する。</p> <p>◆生涯学習ハンドブックの作成 区が行っている講習会等の情報を一元化した情報誌を作成する。</p>
-------	---

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
社会教育関係団体数	団体	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,300	社会教育関係団体に登録している団体数
		実績	1,289	1,268	1,266		令和11年度	
自主グループ講師派遣件数	件	目標	60	60	60	55	60	自主グループ講師を派遣した件数
		実績	33	36	27		令和11年度	
区民プロデュース型講座実施団体数	団体	目標	9	9	9	9	9	区民プロデュース型講座を実施した団体
		実績	2	6	8		令和11年度	
生涯学習ボランティア保険加入団体数	団体	目標	50	50	50	70	70	生涯学習ボランティア保険に加入した団体数
		実績	51	48	46		令和11年度	

取組内容・実績

- ◆社会教育関係団体について、団体登録を促し区内文化施設を利用しやすくすることで、団体活動の支援につなげた。
- ◆自主グループ講師派遣について、講師謝礼の補助を行うことで、団体活動の支援につなげた。
- ◆区民プロデュース型講座について、団体が実施する講座の開催を支援することで、団体の会員拡大につなげた。
- ◆生涯学習ボランティア保険について、青少年少女団体の指導者・育成者のボランティアを対象に事故の補償を設けることで、団体活動の円滑な実施を支援した。

指標の達成状況

- ◆令和2年度以降、社会教育関係団体の登録数は、1,250団体前後を維持している。
- ◆区民プロデュース型講座・生涯ボランティアについては、各団体の活動が活発に行われているため、目標にわずかに達しなかったが、微増の傾向にある。
- ◆自主グループ講師派遣は、申請団体の構成員の高齢化と募集期間の見逃しなどの影響により、目標に達しなかった。

必要性・有効性

- ◆本事業は「生きがい」「夢」「つながり」を見つけることのきっかけとなる、各団体の諸活動の支援を目的としており、団体が自主的な活動を継続するうえで大きな役割を担っている。

4 予算・決算 (概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	738	598	0	140	81.0%
役務費	938	742	0	196	79.1%
委託料	1,100	1,095	0	5	99.5%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	732	261	0	471	35.7%
計	3,508	2,696	0	812	76.9%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 598千円 (生涯学習ガイドブック作成費)
- ◆役務費 742千円 (郵便代、ボランティア保険料)
- ◆委託料 1,095千円 (区民プロデュース型講座委託費)
- ◆その他 261千円 (自主グループ講師謝礼)

効率性

- ◆自主グループ講師派遣の実績が目標に達しなかったため、報償費の執行が想定に満たず、全体の執行率が76.9%にとどまった。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	6,727	6,496	-231
物件費	1,572	1,721	149
うち委託料	961	1,095	134
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	1,079	975	-104
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	645	1,270	625
その他	0	0	0
小計 D	10,024	10,462	438
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-10,024	-10,462	-438
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-10,024	-10,462	-438
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-10,024	-10,462	-438

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	406	542	136
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	406	542	136
その他	0	0	0
固定負債 S	4,106	3,414	-692
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	4,106	3,414	-692
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	4,512	3,956	-556
正味財産の部	-4,512	-3,956	556
正味財産の部 合計 U	-4,512	-3,956	556
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:73.5% 令和5年度:74.2%
- ◆主たる業務を直接区職員が行っているため、行政費用における人件費の割合が高くなっている。
- ◆物件費のうち委託料について、区民プロデュース型講座の受託団体が増えたことで費用も増加した。
- ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
- 【説明】
- ◆自主グループ講師派遣について、件数が減少しているが、予算の範囲内で採択件数を増やせるよう新たな工夫を図っていく。

(2) 最終評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
- 【説明】
- ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	文化芸術・スポーツ活動支援事業					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目		文化観光費	事業		文化活動支援事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係		文化観光戦略担当

1 基本情報

長期基本計画	P40	政策の柱	伝統・文化を継承し親しむ環境づくり
		基本的な考え方	区民の文化・芸術活動を支援する
総合実施計画	P37	実施計画事業	文化・芸術に触れる機会の充実
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成21年度	～	関連する個別計画等
根拠法令要綱	文化芸術基本法、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例、品川区文化スポーツかがやき顕彰要綱、品川区文化芸術・スポーツ振興関係共催事業分担金交付要綱、しながわ文化活性化事業助成金交付要綱		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区民が気軽に文化芸術に触れ親しむために、幅広いジャンルの文化芸術事業を展開する。 ◆文化芸術団体や文化芸術資源の可能性や魅力を引き出し、観光や福祉といった他の分野と連携しながら、魅力あるまちづくりや地域の活性化につなげる。 ◆伝統文化や伝統芸能を次世代へ継承・発展・普及させるため、それらに触れる機会創出の支援を行う。 ◆区民等の自主的な文化芸術活動およびスポーツ活動を促進する。
【概要】	◆文化芸術団体が主体的に事業を運営できるよう区内で実施する文化芸術イベントを支援する。 ◆日常に溶け込んだ「文化・芸術」「観光」「地域の力」などを結集した、まちぐるみの文化イベントを開催する。 ◆(公財)十四世六平太記念財団との共催事業である「能楽鑑賞会」に対して支援を行う。 ◆文化芸術およびスポーツ活動で優秀な成績をおさめた生徒・児童等を顕彰する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	目標	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
能楽鑑賞会の来場者数(年間)	人	目標	620	620	620	620	310	(公財)十四世六平太記念財団との共催である能楽鑑賞会の来場者数 ※令和3年度までは品川薪能の実績
		実績	0	473	492		令和11年度	
まちぐるみ文化イベント来場者数	人	目標		10,000	15,000	18,000	20,000	まちぐるみ文化イベント(あつまれ!えばら)の来場者数
		実績		22,030	23,079		令和11年度	
しながわ文化活性化事業助成採択件数	件	目標		8	8	8	8	しながわ文化活性化事業助成金の採択事業の件数
		実績		7	9		令和6年度	
かがやき顕彰の件数(年間)	件	目標	25	25	25	30	30	品川区文化スポーツかがやき顕彰の顕彰件数
		実績	31	31	29		令和11年度	

取組内容・実績

◆令和5年度は、手話を活かした能狂言である「手話」で楽しむ能狂言鑑賞会、雅楽を取り入れた「品川能楽鑑賞会」を喜多能楽堂で開催した。
◆令和5年度は、大規模改修が終了したきゅりあん大ホールの柿落とし公演として、「品川能楽鑑賞会」を実施した。
◆まちぐるみ文化イベント(通称:「あつまれ!えばら」)を開催。区内の文化芸術団体の協力や出展も取り入れ、区民のだれもが文化芸術を楽しむことができるよう努めた。
◆しながわ文化活性化事業助成について、11件の申請のうち、文化イベント9件を採択した。各採択事業の準備から実施までのサポートとして、(公財)品川文化振興事業団と連携し、広報周知等の支援を行った。
◆文化やスポーツの大会で優秀な成績をおさめた区民の方を対象に顕彰をしている。令和5年度は、29件を顕彰した。

指標の達成状況

◆令和5年度の能楽鑑賞会の来場者数は、効果的な周知方法を確立できず計画を下回った。
◆令和5年度のまちぐるみ文化イベント来場者数は、計画を大幅に上回った。近隣住民へのポスティング、文化芸術団体だけでなく町会・自治会、商店街といった様々な団体との積極的な連携が来場者数の増加につながった。イベントが地域に根付くよう、令和6年度も引き続き開催予定である。
◆令和5年度のしながわ文化活性化事業助成採択件数は9件となり、計画を上回った。
◆かがやき顕彰については、令和3年度以降計画を上回っている。各関係部署へ制度の存在を周知しており、認知度が高まっている。

必要性・有効性

◆区民が「能楽」という伝統文化にふれる機会を創出する事業を支援することは有意義である。区が支援することで、普段あまり伝統文化に親しみのない区民の方が認知するきっかけとなり、伝統文化の継承や発展につながる。
◆まちぐるみ文化イベントをきっかけに、区民が幅広いジャンルの文化芸術を楽しめる機会だけでなく、区内の様々な文化芸術団体やアーティストの出演、発表の機会も生まれる。また、在原地区全体を会場にすることで、区民の方に在原地区を知ってもらい、魅力を感じてもらおうといった地域の愛着心を育む土台づくりに寄与する。
◆しながわ文化活性化事業助成を通じて、小規模な文化芸術団体への事業実施までの継続的な支援ができ、区民へ多様なジャンルの文化芸術を感じる機会を提供できる。また、これまで区と関連の薄かったジャンルを取り扱う団体の発見やその振興につながる。
◆文化やスポーツに励む区民の方を顕彰することで、主体的な活動を促す効果が期待できる。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	1,005	1,005	0	0	100.0%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	1,760	1,760	0	0	100.0%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	17,500	17,283	0	217	98.8%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	20,265	20,048	0	217	98.9%

決算額の主な内訳

◆需用費 1,005千円(かがやき顕彰横断幕等作成他)
◆委託料 1,760千円(しながわ文化活性化事業助成採択団体等支援委託)
◆負担金補助及び交付金 17,283千円(能楽鑑賞会等運営負担金、まちぐるみ文化イベント運営負担金、しながわ文化活性化事業助成金)

効率的性

◆令和4年度に役員費、使用料及び賃借料の執行内容を見直した結果、令和5年度は予算要求しなかった。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	13,453	12,225	-1,228
物件費	5,330	2,765	-2,565
うち委託料	4,300	1,760	-2,540
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
費用補助費等	17,906	17,283	-623
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	1,290	2,398	1,108
その他	0	0	0
小計 D	37,979	34,671	-3,308
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-37,979	-34,671	3,308
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-37,979	-34,671	3,308
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-37,979	-34,671	3,308

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	812	1,024	212
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	812	1,024	212
その他	0	0	0
固定負債 S	8,213	6,449	-1,764
特別区債	0	0	0
退職給付引当金	8,213	6,449	-1,764
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	9,025	7,473	-1,552
正味財産の部	-9,025	-7,473	1,552
正味財産の部合計 U	-9,025	-7,473	1,552
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:38.8% 令和5年度:42.2%
◆令和5年度について、費用のほとんどは、各事業に対する負担金補助および交付金である。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆C 改善・見直しする事業 ◆取組みの一部廃止
【説明】
◆絶え間なく変化する文化芸術活動の支援のニーズに対して柔軟に対応することで、区民の「生きがい」「夢」「つながり」発見のきっかけづくりに貢献する。
◆しながわ文化活性化事業助成については、東京2020大会のレガシーとしての文化芸術活動の支援という一定の役割を終えたため廃止する。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆C 改善・見直しする事業 ◆取組みの一部廃止
【説明】
◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	品川区民芸術祭経費					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化活動支援事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当	

1 基本情報

長期基本計画	P38	政策の柱 基本的な考え方	伝統・文化を継承し親しみ環境づくり 将来を支える次世代を育成する
総合実施計画	P37	実施計画事業 現況 必要事業量	文化・芸術に触れる機会の充実 — —
事業期間	平成22年度 ~	関連する個別計画等	品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン
根拠法令要綱	品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】
◆区にゆかりのある音楽家・芸術家の協力を得ながら、区民の誰もが気軽に参加・鑑賞でき、質の高い文化芸術に触れ親しみ機会を創出する。

【概要】
◆公益財団法人品川文化振興事業団との共催事業として実施する。
◆区民による書道・写真・絵画・手工芸・華道などの芸術作品を展示する「区民作品展」を実施する。
◆区内で活動するアマチュアの文化芸術団体・サークル活動の発表の機会を設ける「区民参加イベント(しながわアマチュアステージ)」を実施する。
◆区内の小・中・高生・大学生・社会人による日頃の活動発表および交流の機会として「ティーンズコンサート」を実施する。
◆品川ゆかりのプロの団体や個人の協力を得て、区民の誰もが親しめるよう、特に良質で安価なコンサートなどを提供し、芸術祭を通して文化芸術に「触れ・親しみ・楽しむ」ことができる環境を作る。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (達成年度)	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
芸術祭参加・鑑賞人数	人	目標	14,500	14,500	14,600	10,000	10,000	品川区民芸術祭期間(9月~11月)に実施した「コンサート・アマチュアステージ・区民作品展」への参加者・来場者数
		実績	4,600	8,244	8,036		令和11年度	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

取組内容・実績

◆共催事業として公益財団法人品川文化振興事業団が「品川アーティスト展2023」、「ドリームステージ2023 アカベラ&コーラス with “ベイビーブー”」、「佐藤泰生 エトランゼの美学(〇美術館企画展)」を実施した。
◆「区民作品展」については、日ごろの活動の成果発表の場として、区民の創作意欲の向上に寄与した。また作品の表彰式・講評において、手話通訳者を派遣した。
◆「区民参加イベント」については、運営の詳細なマニュアルを作成するなど参加団体をサポートし、自主的な運営ができる環境を整えたことで、参加団体の主体性が高まるイベントとなった。また団体同士の活動の幅が広がるきっかけづくりに寄与した。
◆「ティーンズコンサート」については、区内の学生が日頃の練習成果を発表する場と社会人も含めた幅広い世代が集まり交流を深める場の創出に貢献した。

指標の達成状況

◆令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、大部分の事業が中止となったが、令和3年度は区民参加イベントや音楽部門など一部の事業を実施することができたため参加人数は微増した。
◆令和4年度は全事業を実施したが、入場者を制限するなど対策をおこなったため、前年度より参加人数は増加したが目標値には届かなかった。
◆令和5年度は区民参加イベントは参加人数が増加したが、〇美術館企画展や区民作品展など入場者が減少したため、目標値には届かなかった。

必要性・有効性

◆区民が日常的に実施している文化芸術活動を発表する場が求められており、アマチュアステージはその場としての役割を担っている。
◆区民の感性をより豊かなものにするため、気軽に文化芸術に触れることができる機会の創出が求められており、区民作品展や品川文化振興事業団が実施するコンサート等の事業はその機会としての役割を担っている。
◆本事業は文化・芸術活動とおし「生きがい」「夢」「自己表現」の喜びを見つけることへのきっかけとなり、区民の幸福(しあわせ)を実現するため必要な事業となっている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	1,273	1,076	0	197	84.5%
役員費	382	352	0	30	92.1%
委託料	2,874	2,795	0	79	97.3%
使用料及び賃借料	2,548	2,441	0	107	95.8%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	22,075	20,455	0	1,620	92.7%
その他	686	675	0	11	98.4%
計	29,839	27,793	0	2,046	93.1%

決算額の主な内訳

◆需用費 1,076千円(チラシ印刷他)
◆委託料 2,795千円(作品展会場設営等委託他)
◆使用料及び賃借料 2,441千円(区民参加イベント使用料他)
◆負担金補助及び交付金 20,455千円(品川文化振興事業団負担金)

効率的性

◆新型コロナウイルス感染症および、総合区民会館の改修工事が終了したことで、全事業を正常に実施し、90%を超える執行率を維持することができた。
◆品川区の地域文化団体に精通している公益財団法人品川文化振興事業団と共催で実施することで、効率的効果的に事業を実施できた。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円) ②貸借対照表 (千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	11,772	10,793	-979
物件費	3,928	6,668	2,740
うち委託料	2,462	2,795	333
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
費用補助費等	16,747	21,125	4,378
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	1,129	2,116	987
その他	0	0	0
小計 D	33,576	40,702	7,126
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-33,576	-40,702	-7,126
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-33,576	-40,702	-7,126
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-33,576	-40,702	-7,126

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	711	904	193
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	711	904	193
その他	0	0	0
固定負債 S	7,186	5,690	-1,496
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	7,186	5,690	-1,496
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	7,897	6,594	-1,303
正味財産の部	-7,897	-6,594	1,303
正味財産の部合計 U	-7,897	-6,594	1,303
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:38.4% 令和5年度:31.7%
◆費用の大半を占める補助費等は品川文化振興事業団への分担金であり、全体の大きな割合を占めている。
◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
【説明】
◆新型コロナウイルス感染症拡大のため停滞していた文化活動を活性化させるため、実施方法も含めより効果的に事業を運営できるよう検討を進める。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
【説明】
◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	品川文化振興事業助成金					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化活動支援事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課		担当係	文化観光戦略担当

1 基本情報

長期基本計画	政策の柱	伝統・文化を継承し親しむ環境づくり
	基本的な考え方	区民の文化・芸術活動を支援する
総合実施計画	実施計画事業	財団が実施する事業に対する管理運営費および事業費補助
	現況	—
	必要事業量	—
事業期間	昭和61年度 ~	関連する個別計画等
根拠法令要綱	品川区補助金等交付規則、公益財団法人品川文化振興事業団に対する助成に関する条例、公益財団法人品川文化振興事業団補助金交付要綱	

2 事業の目的・概要

目的・概要
【目的】
◆区民の高度で多様化した文化的要望に応えるとともに、文化の振興を通して、ゆとりと潤いのある地域社会づくりに寄与する。
【概要】
◆地域で文化・芸術活動を行うアーティストの活動を支援するとともに、地域団体等との連携を図る。
◆事業団情報紙 i n f o C U R I A (紙・電子)により区内文化・芸術活動を周知および発信する。
◆区民に身近な施設において安価にてカルチャー講座を開設・運営し、区民の生涯学習の推進を図る。
◆芸術団体および地域住民の発表の場として美術館を運営・提供し、芸術を身近に感じられる機会を提供する。
◆落語や映画、パレエ、音楽など多彩なジャンルおよび、有名アーティストから区にゆかりのあるアーティストまで、幅広い出演者による文化・芸術公演を区民が安価で楽しむことができる環境を提供する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	目標 (達成年度)	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
ゆかりアーティスト登録者数	人	目標	70	80	90	95	100	
		実績	74	83	92		令和11年度	
○美術館入場者数	人	目標	12,000	23,000	25,000	25,000	28,000	
		実績	12,632	23,605	24,496		令和11年度	
メイプルカルチャーセンター受講者数	人	目標	2,400	3,500	5,000	5,000	9,000	
		実績	2,408	3,262	4,310		令和11年度	
主催・共催公演入場者数	人	目標	15,000	7,000	10,000	16,000	20,000	
		実績	12,899	6,582	15,499		令和11年度	

取組内容・実績
◆地域イベントにゆかりアーティストやアート応援マスコットしな一とを派遣し、地域の文化・芸術の振興を図った。
◆メイプルカルチャーセンターでは、運動や音楽等の講座を実施することにより、地域顧客のニーズに応えた新たな形のサービスを提供した。
◆積極的に大ホール等の会場使用の誘致を行い、共催事業の回数を増やすことで、主催事業減による経費の削減・魅力的かつ質の高い公演を区民へ提供することができた。

指標の達成状況

◆アート応援マスコット「しな一」を活用したSNSからの発信、積極的に地域イベントへの参加によりゆかりアーティストの登録目標は達成した。
◆○美術館の来館者は、目標は未達成だったが利用者は上昇している。今後も更なる利用者増を目指している。
◆メイプルカルチャーセンターの受講者数は目標に届かなかったが、前年度と比べて1,000人増と大幅に上昇した。

必要性・有効性

◆多角的に文化芸術・生涯学習事業を展開することにより、活力と賑わいのあるまちづくりに貢献している。
◆地域の文化芸術団体等と連携して事業を展開しているほか、区内各所で実施する事業の周知等も行っており、地域全体での文化・芸術レベルの向上に寄与している。

4 予算・決算 (概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.0%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	0	0	0	0	0.0%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	331,675	285,444	0	46,231	86.1%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	331,675	285,444	0	46,231	86.1%

決算額の主な内訳
◆負担金補助及び交付金 285,444千円 (品川文化振興事業助成金)

効率性

◆執行率は86.1%と高いが、各事業における委託費などコストダウンを図れる点もあり、引き続き予算の精査に務める。
--

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円) ②貸借対照表 (千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	4,204	2,814	-1,390
物件費	0	0	0
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	285,337	285,444	107
費用減価償却費	743	743	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	403	564	161
その他	0	0	0
小計 D	290,687	289,565	-1,122
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-290,687	-289,565	1,122
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-290,687	-289,565	1,122
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-290,687	-289,565	1,122

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	477,784	477,041	-743
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	7,784	7,041	-743
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	470,000	470,000	0
資産の部合計 Q=0+P	477,784	477,041	-743
流動負債 R	254	241	-13
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	254	241	-13
その他	0	0	0
固定負債 S	2,566	1,517	-1,049
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	2,566	1,517	-1,049
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	2,820	1,758	-1,062
正味財産の部	474,964	475,283	319
正味財産の部 合計 U	474,964	475,283	319
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	477,784	477,041	-743

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和 4年度: 1.6% 令和 5年度: 1.2%
◆補助費等がコストの大勢を占める。補助額は収益を相殺した額であり、収入額は計上されておらず全額が費用となるため、収支差額はマイナスとなる。
◆負債は賞与・退職金の引当金の計上のみである。

6 評価

(1) 所管評価
【評価結果・今後の取組の方向性】
◆B 継続する事業 ◆現状維持
【説明】
◆今後も地域に寄り添いつつ文化芸術の振興を図ることは必須であるため、継続して実施する。
(2) 最終評価
【評価結果・今後の取組の方向性】
◆B 継続する事業 ◆現状維持
【説明】
◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	社会教育委員会議運営費					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化活動支援事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当	

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱 基本的な考え方	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり 多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況 必要事業量	— —
事業期間	平成18年度 ~ 平成20年度		関連する個別計画等
根拠法令要綱	社会教育法、品川区社会教育委員の設置に関する条例、品川区社会教育委員会議運営要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要	<p>【目的】</p> <p>◆社会教育行政に広く地域の意見を反映させるため、教育委員会の諮問機関として設けられた制度である。</p> <p>◆昭和24年の「社会教育法」の制定で法律上の根拠が与えられた。</p> <p>【概要】</p> <p>◆社会教育委員会議を開催し、社会教育行政に関する助言をする。</p>
-------	--

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
社会教育委員会議の開催回数	回	目標	5	5	5	0	令和11年度	社会教育委員会議を開催した回数
		実績	0	0	0			
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

取組内容・実績

◆社会教育行政に広く地域の意見を反映させるため設置している委員会である。

◆社会教育法においては、社会教育に関し教育委員会に助言するとされている。

◆第25期（平成18年3月1日～平成20年2月29日）を最後に諮問を要する事案はなく、平成21年度以降は未設置の状況である（社会教育委員も委嘱されていない）。

指標の達成状況

◆前述のとおり、平成21年度以降開催を見送っていることから未達成である。

必要性・有効性

◆平成21年度以降、社会教育委員に諮問を要する事案は生じておらず、会議のあり方について再検討する必要がある。

◆教育委員会での諮問機関という目的で設置している以上、すでにその役目を終えたことから廃止とする。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	105	0	0	105	0.0%
役務費	22	0	0	22	0.0%
委託料	0	0	0	0	0.0%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	799	0	0	799	0.0%
計	926	0	0	926	0.0%

決算額の主な内訳

◆主に予算計上されているのは、委員謝礼や郵券などの事務用経費である。

◆令和4年度については、諮問を要する事案がなく、開催を見送った。

◆教育委員会での諮問機関という目的で設置している以上、すでにその役目を終えたことから廃止とする。

効率性

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	0	0	0
物件費	0	0	0
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	0	0	0
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	0	0	0
その他	0	0	0
小計 D	0	0	0
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	0	0	0

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	0	0	0
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定負債 S	0	0	0
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	0	0	0
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	0	0	0
正味財産の部	0	0	0
正味財産の部 合計 U	0	0	0
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:0.0% 令和5年度:0.0%

◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆D 完了・廃止する事業 ◆事業の廃止

【説明】

◆教育委員会での諮問機関という目的で設置している以上、すでにその役目を終えたことから令和5年度をもって廃止とした。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆D 完了・廃止する事業 ◆事業の廃止

【説明】

◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	文化活動関係事務費					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化活動支援事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当	

1 基本情報

長期基本計画	政策の柱	—
	基本的な考え方	—
総合実施計画	実施計画事業	—
	現況	—
	必要事業量	—
事業期間	～	関連する個別計画等
根拠法令要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】
 ◆文化観光戦略課における各種事務事業の執行に必要な事務用品等の整備を行い、各係の事務事業の円滑な執行を確保する。

【概要】
 ◆課内共通事務経費の管理を行う。
 ①事務用品（文具・用紙代他）
 ②全国人権・同和教育研究大会等、各種大会参加費および旅費

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	目標 (達成年度)	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

取組内容・実績

- ◆課内消耗品（複合機印刷料、課内事務用品、新聞購読、名刺等）の購入。
- ◆本職員の近接地内外旅費の支出。
- ◆施設予約システムの利用率について、デジタル推進課への執行委任。

指標の達成状況

必要性・有効性

- ◆文化観光戦略課の円滑な事務事業の執行にあたり、必要な経費である。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	2,686	2,568	0	118	95.6%
役員費	142	77	0	65	54.2%
委託料	0	0	0	0	0.0%
使用料及び賃借料	3,453	3,453	0	0	100.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	13	0	0	13	0.0%
その他	326	73	0	253	22.4%
計	6,620	6,171	0	449	93.2%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 2,568千円（課内事務用品、電子複写機使用賃借および消耗品供給 他）
- ◆使用料及び賃借料 3,453千円（施設予約システム利用料）

効率性

- ◆執行率は93.2%と予算内において効率的に執行している。
- ◆令和6年度から、施設予約システムがリニューアルしたことでランニングコストが変動しており、以降もシステム稼働が軌道に乗るまでは継続的な変動が見込まれる。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円) ②貸借対照表 (千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	7,567	7,212	-355
物件費	6,286	6,135	-151
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	21	21
行政扶助費	0	0	0
補助費等	41	15	-26
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	726	1,411	685
その他	0	0	0
小計 D	14,620	14,793	173
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-14,620	-14,793	-173
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-14,620	-14,793	-173
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-14,620	-14,793	-173

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	457	602	145
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	457	602	145
その他	0	0	0
固定負債 S	4,620	3,794	-826
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	4,620	3,794	-826
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	5,076	4,396	-680
正味財産の部	-5,076	-4,396	680
正味財産の部 合計 U	-5,076	-4,396	680
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和 4年度: 56.7% 令和 5年度: 58.3%
- ◆令和5年度について、行政費用の約5割は旅費等含む給与関係費である。
- ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆B 継続する事業 ◆現状維持

【説明】

- ◆文化観光戦略課の円滑な事務事業の執行を行うため、今後も継続をする。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

- ◆DX推進基本方針に基づき、ペーパーレス化の徹底による電子決裁率100%の実現とA I やR P A などデジタル技術を活用した業務の効率化を進める。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	区民学習支援経費					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	生涯学習推進事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	生涯学習係	

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画	P30	実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和50年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	社会教育法 地方教育行政の組織及び運営に関する法律		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】
 ◆学習のきっかけづくりとなるような幅広いジャンルの講座を実施し、行政課題への関心や郷土愛を育む。また、差別のない明るいまちづくりをめざし、人権差別(同和)問題の啓発を主軸に人権尊重教育の充実を図る。

【概要】
 ◆専門講座の実施 ◆地域講座の実施 ◆しながわ学の実施 ◆しながわ塾の実施 ◆パートナーシップ講座の実施 ◆しながわ学びの杜特別講演会の実施 ◆チャレンジ塾の実施 ◆講座のインターネット配信の実施 ◆人権啓発・社会同和教育講座Ⅰの実施 ◆人権啓発・社会同和教育講座Ⅱの実施

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (達成年度)	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
オープンカレッジの実施【年間】	回	目標	71	122	122	134	134	オープンカレッジ講座実施回数
		実績	91	121	132		令和11年度	
オープンカレッジ延べ参加人数	人	目標	5,153	9,900	10,000	7,000	7,000	オープンカレッジ延べ参加人数
		実績	5,592	5,432	6,600		令和11年度	
講座のインターネット配信視聴回数	回	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	講座のインターネット配信視聴回数 令和6年度5月現在 令和5年度準備中
		実績	0	369			令和11年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績

◆16歳以上の区内在住・在勤・在学の方を対象に、区の主催講座や区内大学との共催講座等を実施した。
 ※チャレンジ塾は知的障害(愛の手帳)がある方のみを対象としている。
 ◆パートナーシップ講座は、大学等と協議の上、対面開催・オンライン開催など多様な開講方法で実施した。
 ◆令和3年度インターネット配信は、新型コロナウイルス感染症の影響により各大学の対面開催が減少し、配信希望がなく実施しなかった。なお、令和5年度に実施した講座のインターネット配信は、令和6年度中の公開を予定している。

指標の達成状況

◆令和3~4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小して開催した。
 ◆令和5年度以降は国や都の基準を考慮の上、以前の基準に戻して開催したが、参加人数の回復は見込めなかった。

必要性・有効性

◆区民の生きがいづくりや学びを提供する上で大きな役割を担っている。
 ◆区内大学と共催講座を実施し、生涯学習を通じて地域連携を図る。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	2,252	2,233	0	19	99.2%
役員費	156	148	0	8	94.9%
委託料	297	297	0	0	100.0%
使用料及び賃借料	504	240	0	264	47.6%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	3,994	2,751	0	1,243	68.9%
計	7,203	5,669	0	1,534	78.7%

決算額の主な内訳

◆需用費 2,233千円(開催要項チラシ・ポスター、事務用品他)
 ◆その他 2,751千円(講師謝礼他)

効率性

◆地域講座・しながわ学・しながわ塾は事業コンセプトが類似しているため、棲み分けの明確化や統合を検討する必要がある。
 ◆開催要項のチラシ・ポスターの不要分が多いため、発注枚数を検討する必要がある。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	26,066	20,666	-5,400
物件費	2,831	2,928	97
うち委託料	440	297	-143
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	2,703	2,742	39
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	2,380	4,091	1,711
その他	0	0	0
小計 D	33,980	30,427	-3,553
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	3,354	3,620	266
小計 E	3,354	3,620	266
行政収支差額 H=E-D	-30,627	-26,807	3,820
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-30,627	-26,807	3,820
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-30,627	-26,807	3,820

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	1,573	1,747	174
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	1,573	1,747	174
その他	0	0	0
固定負債 S	13,859	11,001	-2,858
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	13,859	11,001	-2,858
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	15,432	12,748	-2,684
正味財産の部	-15,432	-12,748	2,684
正味財産の部 合計 U	-15,432	-12,748	2,684
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:83.7% 令和5年度:81.4%
 ◆主たる業務を区職員が行っているため、行政費用における人件費の割合が高くなっている。
 ◆行政収入のその他には、講座受講料と公益財団法人地域社会振興財団による交付金が計上されている。
 ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

◆コンセプトが類似している事業の棲み分け・統合等の検討を行う。
 ◆チャレンジ塾について、毎年同じテーマではなく、魅力あるテーマを設定し参加者増加を図る。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	シルバー大学					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	生涯学習推進事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	生涯学習係	

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画	P30	実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成 5年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	社会教育法 品川シルバー大学設置に関する要綱		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆高齢者がいきがいを持ち、心豊かな生活をおくれるよう、高齢者の学習事業を体系化し、同時に幅広い学習機会を提供する。
【概要】	◆ふれあいアカデミーの実施 ◆うるおい塾の実施 ◆生涯現役実現講座の実施

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	目標 (達成年度)	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
シルバー大学の実施【年間】	回	目標	414	664	664	626	626	シルバー大学講座実施回数
		実績	436	556	626		令和11年度	
品川シルバー大学延べ参加人数	人	目標	5,947	14,500	14,900	14,200	14,200	品川シルバー大学延べ参加人数
		実績	6,296	7,934	9,686		令和11年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績

◆ふれあいアカデミー1年目のふれあいコースでは、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、定員を100名に縮小して実施した。
◆うるおい塾については、書道・体操・パソコンなどの教室を全10回、春期25教室・秋期25教室にて実施した。定員は各教室12名程度に縮小して開催した。
◆生涯現役実現講座では、自分にできる地域貢献とは何かを考える、セカンドライフの道しるべとなることを目的とし、中小企業センターにて全4回の講座を実施した。

指標の達成状況

◆令和3~5年度については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、感染症対策を講じつつ定員や教室数を縮小して実施した。
◆開講直前のキャンセルや、講座途中での受講辞退等の理由により、目標を下回る結果となった。

必要性・有効性

◆高齢者のいきがい創出や学習機会の提供という観点からも、生涯学習事業を継続する必要性は高い。

4 予算・決算 (概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	1,398	1,398	0	0	100.0%
役員費	711	364	0	347	51.2%
委託料	1,073	1,059	0	14	98.7%
使用料及び賃借料	2,722	2,674	0	48	98.2%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	9,518	7,972	0	1,546	83.8%
計	15,422	13,467	0	1,955	87.3%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 1,398千円 (開催要項チラシ、事務用品他)
- ◆委託料 1,059千円 (シルバー大学開講準備委託、いきいきコース講座企画運営委託)
- ◆使用料及び賃借料 2,674千円 (会場使用料)
- ◆その他 7,972千円 (講師謝礼他)

効率性

- ◆シルバー人材センターに開講準備作業の一部を委託し、効率的に事業を実施した。
- ◆課が有する文化センターの稼働率が低い中、他課の有料施設を利用するなど、非効率な状況がある。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	28,588	22,048	-6,540
物件費	4,155	5,520	1,365
うち委託料	1,016	1,059	43
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	6,812	7,947	1,135
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	2,622	4,373	1,751
その他	0	0	0
小計 D	42,177	39,888	-2,289
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	5,946	6,042	96
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	1,798	2,230	432
小計 E	7,744	8,272	528
行政収支差額 H=E-D	-34,433	-31,616	2,817
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-34,433	-31,616	2,817
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-34,433	-31,616	2,817

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	1,726	1,867	141
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	1,726	1,867	141
その他	0	0	0
固定負債 S	15,399	11,760	-3,639
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	15,399	11,760	-3,639
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	17,125	13,628	-3,497
正味財産の部	-17,125	-13,628	3,497
正味財産の部 合計 U	-17,125	-13,628	3,497
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和 4年度: 74.0% 令和 5年度: 66.2%
- ◆主たる業務を区職員が行っているため、行政費用における人件費の割合が高くなっている。
- ◆都支支出金には、都補助金 (人生100年時代セカンドライフ応援事業補助金) が計上されている。
- ◆流動・固定負債には、翌年度以降に支出することが見込まれる職員の賞与・給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

- ◆段階的にコロナ禍前の事業規模に戻し、定員を満たすよう周知等強化を図る。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

- ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	障害者の学習活動支援					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	生涯学習推進事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	生涯学習係	

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画	P30	実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和58年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	社会教育法 日曜サークル青年コース運営要綱、日曜サークル自主コース運営要綱、日曜サークル成人コース運営要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】

- ◆区内在住の軽度の知的障害がある区民を対象に、集団活動をととして生きる力・働く力を育て社会生活での自立の一助とする。
- ①仲間づくり ②社会性の育成 ③余暇の活用 ④生活技術の向上

【概要】

- ◆日曜サークル青年コースの実施
- ◆日曜サークル自主コースの実施
- ◆日曜サークル成人コースの実施

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
日曜サークルの実施【年間】	回	目標	12	41	41	41	40	日曜サークル実施回数
		実績	11	41	41		令和6年度	
日曜サークル延べ参加人数	人	目標	874	1,100	1,100	800	800	日曜サークル延べ参加人数
		実績	255	681	794		令和11年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績

- ◆青年コースについては、16歳以上30歳未満の方を対象に、グループ活動・趣味講座・宿泊活動など、年間14回の活動を行った。
- ◆自主コースについては、青年コースに6年以上在籍した方を対象に、外出・宿泊などのグループ活動など、年間13回の活動を行った。
- ◆成人コースについては、30歳以上の方を対象に、手芸・工芸・調理実習・外出活動・バスハイクなど、年間14回の活動を行った。

指標の達成状況

- ◆令和3、4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、活動規模の縮小や参加を見送る方が多かったため、目標を大幅に下回る参加人数となった。
- ◆令和5年度については、目標には達しなかったものの、前年度よりも参加者数が回復する傾向が見られた。

必要性・有効性

- ◆軽度知的障害者が社会性を身につけ、社会生活での自立を促す役割を担っているため、必要性は高い。

4 予算・決算 (概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	76	76	0	0	100.0%
役員費	320	268	0	52	83.8%
委託料	0	0	0	0	0.0%
使用料及び賃借料	1,780	1,233	0	547	69.3%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	6,792	5,333	0	1,459	78.5%
計	8,968	6,910	0	2,058	77.1%

決算額の主な内訳

- ◆使用料及び賃借料 1,233千円 (施設入場料、特別活動バス借上げ)
- ◆その他 5,333千円 (スタッフ謝礼他)

効率性

- ◆障害者への理解と地域貢献への意欲が高いボランティアに運営を委嘱する事によって、効果的に事業を実施した。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	13,453	11,458	-1,995
物件費	1,672	1,660	-12
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	5,606	5,250	-356
費用減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	1,230	2,257	1,027
その他	0	0	0
小計 D	21,962	20,625	-1,337
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-21,962	-20,625	1,337
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-21,962	-20,625	1,337
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-21,962	-20,625	1,337

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 0	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
流動負債 R	812	964	152
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	812	964	152
その他	0	0	0
固定負債 S	7,186	6,070	-1,116
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	7,186	6,070	-1,116
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	7,998	7,034	-964
正味財産の部	-7,998	-7,034	964
正味財産の部 合計 U	-7,998	-7,034	964
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 66.9% 令和5年度: 66.5%
- ◆ボランティアの人数が減ったため、「補助費等」が減少している。
- ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

- ◆青年から自主へのコース移行者が減り各コースの特色が薄れているため、参加しやすい環境を見直し、コース区分の再検討を行う。
- ◆参加者の特性から「福祉的」対応も多い中、職員やボランティアに福祉職は在籍しておらず、事業実施に不安を抱えている。研修の強化等、福祉関係所管との協力体制について検討を行う。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

- ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	総合区民会館運営費					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化コミュニティ施設経費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略担当	

1 基本情報

長期基本計画	37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成 元年度 ~	関連する個別計画等	
根拠法令要綱	品川区立総合区民会館条例、品川区立総合区民会館条例施行規則、(公財)品川文化振興事業団に対する助成に関する条例		

2 事業の目的・概要

目的・概要	<p>【目的】</p> <p>◆区民への文化・芸術促進事業展開、文化コミュニティ活動の振興および区民相互の文化活動の拠点としての場の提供を目的とし、品川区立総合区民会館(きゅりあん)を運営する。</p> <p>【内容】</p> <p>◆指定管理者による管理運営：多様化する区民の文化・コミュニティ活動に弾力的に対応し、高水準の利用者サービスを行うため、平成18年度から(財)品川文化振興事業団を指定管理者として管理運営を行わせている。(令和2年度に指定管理者候補者選定を行い、引き続き令和3年度から5年間管理運営を行わせる。)</p> <p>◆総合区民会館の区専有部分・駐車場・共用部分のビル管理委託および光熱水費など、大井町再開発ビル全体を総合的・効率的に管理するため、指定管理者を通して、(株)品川都市整備公社に一括管理委託している。</p> <p>【施設概要】</p> <p>◆敷地面積 約5,055㎡ 延床面積 約41,655㎡ 諸室 ①大ホール1,074席 ②小ホール336席 ③その他(イベントホールなど)</p>
-------	---

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
利用者満足度	%	目標	90.0	90.0	95.0	95.0	95.0	利用者アンケート(毎年7月の1か月間実施)『満足』『やや満足』の割合
		実績	95.4	0	0		令和11年度	
大ホール利用率	%	目標	80.0	0	85.0	90.0	90.0	利用件数/利用可能件数×100
		実績	70.8	0	94.6		令和11年度	
小ホール利用率	%	目標	70.0	70.0	85.0	85.0	90.0	利用件数/利用可能件数×100
		実績	66.3	80.4	83.6		令和11年度	
イベントホール利用率	%	目標	70.0	80.0	95.0	95.0	95.0	利用件数/利用可能件数×100
		実績	72.2	91.2	91.0		令和11年度	

取組内容・実績	<p>◆(公財)品川文化振興事業団を指定管理者として、品川区総合区民会館の管理運営業務を行った。</p> <p>◆大井町再開発ビルの管理および警備の委託を行った。</p> <p>◆大井町再開発ビル駐車場の管理および警備の委託を行った。</p> <p>◆令和5年10月1日のリニューアルオープンに向け、施設の大規模改修および必要となる物品の精査を行った。</p> <p>◆品川区や(公財)品川文化振興事業団として実施する事業等を支援することで、品川区民の文化・芸術活動の振興を図った。</p>
---------	---

指標の達成状況

<p>◆利用者アンケートによる満足度は高く評価を得ている。なお、令和4年度、5年度は大規模改修中であることからアンケートは実施しなかった。</p> <p>◆令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、実績が減少した。</p> <p>◆令和4年度の大ホールは大規模改修中(令和4年2月~令和5年9月まで)であることから、利用率の実績は0%であった。</p> <p>◆令和5年10月に大ホールを含む全館リニューアルオープンを迎え、概ね各施設の利用率は上昇傾向にある。</p>

必要性・有効性

<p>◆品川区を代表する文化芸術振興施設であり、地域の防災拠点(帰宅困難者受入れ施設等)としても重要な役割を担っている。</p>
--

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	8,582	4,930	0	3,652	57.4%
役務費	297	297	0	0	100.0%
委託料	233,390	209,392	0	23,998	89.7%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	3,243,646	3,243,646	0	0	100.0%
備品購入費	31,830	29,888	0	1,942	93.9%
負担金補助及び交付金	152,599	138,391	0	14,208	90.7%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	3,670,344	3,626,544	0	43,800	98.8%

決算額の主な内訳	<p>◆委託料 209,392千円(指定管理経費、管理・警備委託他)</p> <p>◆工事請負費 3,243,646千円(大規模改修工事)</p> <p>◆負担金補助及び交付金 138,391千円(共用部分管理費、光熱水費、計画修繕負担金)</p>
----------	--

効率性

<p>◆品川区の地域文化団体に精通している(公財)品川文化振興事業団が指定管理者として運営することで、効果的に運営している。</p>
--

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)	勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	13,407	12,173	-1,234	流動資産 0	0	0	0
物件費	179,030	171,464	-7,566	収入未済	0	0	0
うち委託料	178,994	179,986	992	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	165	165	その他	0	0	0
行政扶助費	0	0	0	固定資産 P	11,259,472	13,828,176	2,568,704
補助費等	110,106	113,027	2,921	土地	3,547,399	3,547,399	0
減価償却費	143,126	144,742	1,616	建物	2,395,877	10,250,198	7,854,321
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	1,342	2,398	1,056	重要物品	26,380	30,579	4,199
その他	506,442	60,157	-446,285	インフラ資産	0	0	0
小計 D	953,452	504,126	-449,326	建設仮勘定	5,289,816	0	-5,289,816
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	11,259,472	13,828,176	2,568,704
国庫支出金	0	0	0	流動負債 R	864	1,024	160
都支支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0	賞与引当金	864	1,024	160
その他	47,226	44,773	-2,453	その他	0	0	0
小計 E	47,226	44,773	-2,453	固定負債 S	8,213	6,449	-1,764
行政収支差額 H=E-D	-906,226	-459,353	446,873	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	8,213	6,449	-1,764
通常収支差額 J=H+I	-906,226	-459,353	446,873	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	837	837	負債の部合計 T=R+S	9,077	7,473	-1,604
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	11,250,395	13,820,703	2,570,308
特別収支差額 M=L-K	0	-837	-837	正味財産の部 合計 U	11,250,395	13,820,703	2,570,308
当期収支差額 N=J+M	-906,226	-460,191	446,035	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	11,259,472	13,828,176	2,568,704

特徴的事項

<p>◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:1.5% 令和5年度:2.9%</p> <p>◆施設の運営にあたり指定管理制度を導入しているため、行政費用における物件費(委託料)の割合が高くなっている。</p> <p>◆行政費用(その他)について、大規模改修工事に付随する工事の数が減ったため、昨年度に比べ減少している。</p> <p>◆固定資産には、総合区民会館の建物、土地等が計上されている。</p>
--

6 評価

(1) 所管評価	<p>【評価結果・今後の取組の方向性】</p> <p>◆B 継続する事業 ◆現状維持</p> <p>【説明】</p> <p>◆総合区民会館の円滑な運営事業を継続する。</p>
(2) 最終評価	<p>【評価結果・今後の取組の方向性】</p> <p>◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善</p> <p>【説明】</p> <p>◆コロナ禍で変化した利用者ニーズを的確に捉え、指定管理者と連携しサービス向上に創意工夫を図ることで、利用者の増加に努めるとともに、指定管理料の縮減に努める。</p>

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	荏原平塚総合区民会館運営費					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費		事業	文化コミュニティ施設経費	
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課		担当係	文化観光戦略担当

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成25年度 ~	関連する個別計画等	品川区文化スポーツ施設長寿命化計画
根拠法令要綱	品川区立荏原平塚総合区民会館条例・品川区立荏原平塚総合区民会館条例施行規則、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例、(公財)品川文化振興事業団に対する助成に関する条例		

2 事業の目的・概要

目的・概要	<p>【目的】</p> <p>◆区民への文化・芸術およびスポーツ活動の促進事業展開、文化コミュニティ活動の振興および区民相互の文化活動拠点の提供を目的とし、品川区立荏原平塚総合区民会館（スクエア荏原）を運営する。</p> <p>【内容】</p> <p>◆指定管理者による管理運営：条例第12条の規定に基づき、多様化する区民の文化・コミュニティ活動に弾力的に対応し、高水準の利用者サービスを行うため、平成25年度から（公財）品川文化振興事業団を指定管理者として管理運営を行わせている。（令和5年度に指定管理者の更新を行い、引き続き令和9年度までの5年度間管理運営を行わせる。）</p> <p>【施設概要】</p> <p>敷地面積 約9,133㎡（区立平塚公園 約724㎡を含む） 延床面積 約8,723.79㎡</p> <p>◆諸室 ①ひらつかホール 362席 ②イベントホール 457㎡ ③アリーナ 756㎡ ④その他(会議室・和室・スタジオ・喫茶室)</p>
-------	--

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
利用者満足度	%	目標	90.0	90.0	95.0	95.0	95.0	利用者アンケート（毎年2～3月の1か月間実施）『満足』『やや満足』の割合
		実績	98.6	89.8	95.4		令和11年度	
ひらつかホール利用率	%	目標	70.0	80.0	90.0	90.0	95.0	利用件数／（利用可能回数－利用制限数）
		実績	73.8	88.0	88.5		令和11年度	
イベントホール利用率	%	目標	70.0	70.0	90.0	90.0	95.0	利用件数／（利用可能回数－利用制限数）
		実績	68.4	85.3	83.5		令和11年度	
アリーナ利用率	%	目標	90.0	90.0	100.0	100.0	100.0	利用件数／（利用可能回数－利用制限数）
		実績	99.4	100.0	100.0		令和11年度	

取組内容・実績

◆区民避難所として指定されており地域の防災拠点であることから、防災訓練を年に2回実施するとともに、同一敷地内の平塚すこやか園と年に1度、合同防災訓練を実施している。また、近隣3町会とともに「避難所連絡会議」を開催し、毎年12月に避難所訓練を実施している。

◆令和5年度は開設10年を迎え、10/3～10/9にかけて、コンサート、体験講座、ワークショップ、映画上映等を記念事業として実施した。

◆令和5年度は施設の適切な管理運営のため、以下の改修等を実施した。

①3～4階 照明LED化実施、②冷温水発生機1号機電気計装部品改修工事実施、③前広場防犯カメラ設置工事実施

指標の達成状況

◆施設利用率について、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大による休館や利用人数制限の影響で、実績が減少していたが、令和4年度以降はほぼ回復した。

◆利用者アンケートによる満足度は高く、フリーWi-Fiの導入や決済方法の多様化により、令和5年度には利用者満足度が目標に達し、95.4%であった。

必要性・有効性

◆荏原地区を代表する文化芸術振興施設として周辺町会のまつり会場として活用される等、地域とともに歩み、令和5年度には開設10年目を迎えた。

◆地域の防災拠点（区民避難所）としても重要な役割を担っている。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	34,100	26,667	0	7,433	78.2%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	134,277	133,046	0	1,231	99.1%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	97,149	74,539	0	22,610	76.7%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	265,526	234,253	0	31,273	88.2%

決算額の主な内訳

- ◆委託料 133,046千円（指定管理経費、施設管理運営委託、LED化工事監理業務委託、警備業務委託他）
- ◆工事請負費 74,539千円（LED化工事、冷温水発生機1号機電気計装部品改修工事他）

効率性

- ◆品川区の地域文化団体に精通している（公財）品川文化振興事業団が指定管理者として運営することで効果的に運営した。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	10,090	6,293	-3,797
物件費	164,182	156,645	-7,537
うち委託料	133,166	129,977	-3,189
行政扶助費	4,235	6,873	2,638
費用補助費等	38	0	-38
減価償却費	58,783	60,790	2,007
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	968	1,270	302
その他	14,263	8,365	-5,898
小計 D	252,558	240,235	-12,323
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
行収	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	1,009	988	-21
小計 E	1,009	988	-21
行政収支差額 H=E-D	-251,549	-239,247	12,302
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-251,549	-239,247	12,302
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-251,549	-239,247	12,302

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	6,205,901	6,207,481	1,580
土地	3,800,113	3,800,113	0
建物	2,394,024	2,396,757	2,733
工作物	0	0	0
重要物品	11,764	10,611	-1,153
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	6,205,901	6,207,481	1,580
流動負債 R	609	542	-67
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	609	542	-67
その他	0	0	0
固定負債 S	6,160	3,414	-2,746
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	6,160	3,414	-2,746
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	6,769	3,956	-2,813
正味財産の部	6,199,132	6,203,525	4,393
正味財産の部 合計 U	6,199,132	6,203,525	4,393
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	6,205,901	6,207,481	1,580

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度：4.4% 令和5年度：3.1%
- ◆施設の運営にあたり指定管理者制度を導入しているため、行政費用における物件費（委託料）の割合が高くなっている。
- ◆令和5年度、照明LED化工事を行ったため、行政費用における維持補修費・その他が大きく増加している。
- ◆固定資産には、荏原平塚総合区民会館の土地、建物等が計上されている。

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆B 継続する事業 ◆現状維持
- 【説明】
- ◆荏原平塚総合区民会館の円滑な運営を継続する。

(2) 最終評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
- 【説明】
- ◆コロナ禍で変化した利用者ニーズを的確に捉え、指定管理者と連携しサービス向上に創意工夫を図ることで、利用者の増加に努めるとともに、指定管理料の縮減に努める。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	区民活動交流施設運営費					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目		文化観光費	事業		文化コミュニティ施設経費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係		文化観光戦略担当

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成23年度 ~	関連する個別計画等	品川区文化スポーツ施設長寿命化計画
根拠法令要綱	品川区立区民活動交流施設条例、品川区立区民活動交流施設条例施行規則、品川区立区民活動交流施設管理運営要綱、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆既存の旧八潮南小学校跡を区民活動交流施設（こみゅにていぶらざ八潮）として有効活用し、地域住民のみならず、多世代にわたる幅広い区民が文化芸術・スポーツやレクリエーション活動および地域活動の推進ならびに協働等の振興を通じ、ふれあいや交流を促進することで八潮地域の活性化を図る。
【施設概要】	◆地域交流室、多目的室、講習室、講習和室、パソコン講習室、音楽室、美術工芸室、健康増進室、託児室、スポーツ室、グラウンド、活動拠点室、交流スペース

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
利用件数	件	目標	17,000	18,000	18,000	18,000	18,000	貸室における利用件数
		実績	7,785	9,052	10,074		令和11年度	
利用率	%	目標	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	貸室における利用率
		実績	49.48	49.53	55.97		令和11年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績	◆諸室の貸出や修繕工事などの施設管理・運営業務を行った。 ◆令和3・4年度に施設の照明のLED化工事を行った。 ◆館内の空調を全館空調から個別空調に更新した。 ◆令和4年2月から令和5年12月まで総合区民会館の大規模改修工事により（公財）品川文化振興事業団の仮事務所が移転していた。 ◆令和4年9月から令和5年9月下旬まで品川歴史館の大規模改修工事により仮事務所が移転していた。
---------	---

指標の達成状況

◆令和元年度まで施設の利用件数は着実に伸びていたが、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で貸出の休止や制限を余儀なくされた。 ◆令和5年度は、臨時休館や人数制限などはなく、概ね通常どおりの運用となったが、令和5年度はコロナ禍以前の水準まで戻りつつある。 ◆引き続き利用者の増加に努める。
--

必要性・有効性

◆八潮地域における活動拠点として環境の充実を図ることで、区内の団体による活動や取り組みが活発に展開され、にぎわいを創出するために必要な施設である。 ◆施設の規模が大きく、貸館業務のみならず協働の活動拠点室としての役割や防災拠点であることから新しいタイプの複合施設である。区が管理運営を行いつつ、区内で活動する組織や団体との連携を活かしていくべきである。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	32,359	13,656	0	18,703	42.2%
役員費	981	811	0	170	82.7%
委託料	58,253	56,268	0	1,985	96.6%
使用料及び賃借料	2,851	2,200	0	651	77.2%
工事請負費	4,531	4,531	0	0	100.0%
備品購入費	287	287	0	0	100.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	99,262	77,753	0	21,509	78.3%

決算額の主な内訳	◆需用費 13,656千円（光熱水費他） ◆委託料 56,268千円（窓口受付および管理運営業務委託、清掃業務委託他） ◆工事請負費 4,531千円（屋外排水溝改修工事他）
----------	--

効率性

◆施設の経年劣化が激しくなっている。委託料や工事請負費など施設の維持管理に関する経費は執行率が高く、限りある予算を適切に執行した。光熱水費の支出が想定よりも下回ったことから、需用費の執行率に改善余地がある。

5 財務情報

①行政コスト計算書	(千円)			②貸借対照表	(千円)		
勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)	勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	7,567	10,280	2,713	流動資産 0	0	0	0
物件費	85,168	73,032	-12,136	収入未済	0	0	0
うち委託料	57,952	56,268	-1,684	不納欠損引当金	0	0	0
行政維持補助費	1,942	2,367	425	その他	0	0	0
行政扶助費	0	0	0	固定資産 P	4,951,079	4,920,768	-30,311
費用補助費等	0	0	0	土地	4,548,790	4,548,790	0
減価償却費	30,691	30,311	-380	建物	402,285	371,977	-30,308
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	工作物	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	726	1,975	1,249	重要物品	4	0	-4
その他	171,258	2,354	-168,904	インフラ資産	0	0	0
小計 D	297,351	120,319	-177,032	建設仮勘定	0	0	0
地方税	0	0	0	その他	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	4,951,079	4,920,768	-30,311
行国库支出金	0	0	0	流動負債 R	457	843	386
都支支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
行政収入	0	0	0	特別区債	0	0	0
使用料及び手数料	2,987	2,870	-117	賞与引当金	457	843	386
その他	1,798	1,168	-630	その他	0	0	0
小計 E	4,784	4,038	-746	固定負債 S	4,620	5,311	691
行政収支差額 H=E-D	-292,567	-116,281	176,286	特別区債	0	0	0
金融収支差額 I	0	0	0	退職給与引当金	4,620	5,311	691
通常収支差額 J=H+I	-292,567	-116,281	176,286	その他	0	0	0
特別費用 小計 K	0	0	0	負債の部合計 T=R+S	5,076	6,154	1,078
特別収入 小計 L	0	0	0	正味財産の部	4,946,002	4,914,613	-31,389
特別収支差額 M=L-K	0	0	0	正味財産の部 合計 U	4,946,002	4,914,613	-31,389
当期収支差額 N=J+M	-292,567	-116,281	176,286	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	4,951,079	4,920,768	-30,311

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 2.8% 令和5年度: 10.2% ◆令和4年度に行った全館空調更新工事、照明LED化工事の費用の反動減により、令和5年度の行政費用におけるその他の金額が大きく減少したため、令和5年度当期収支差額は改善した。 ◆固定資産には、区民活動交流施設の土地および建物等が含まれている。
--

6 評価

(1) 所管評価	【評価結果・今後の取組の方向性】 ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善 【説明】 ◆事業規模は現状維持とするが、施設管理・運営形態は引き続き見直しを検討する必要がある。
(2) 最終評価	【評価結果・今後の取組の方向性】 ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善 【説明】 ◆所管評価に同意する。

令和6年度 事務事業評価シート (令和5年度実施事業)

小事業名	文化センター運営費					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化コミュニティ施設経費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	文化観光戦略課担当	

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和47年度～	関連する個別計画等	品川区文化スポーツ施設長寿命化計画
根拠法令要綱	品川区立文化センター条例、品川区立文化センター条例施行規則、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】
 ◆文化センター（5館：五反田、荏原、東品川、旗の台、南大井）を円滑に維持運営し、区民に文化・スポーツの場を提供する。

【施設概要】
 ◆五反田：講習室、会議室、音楽ホール、楽屋、スタジオ、託児室、プラネタリウム
 ◆荏原：講習室、料理講習室、レクリエーションホール、会議室、グループ室、大ホール、温水プール
 ◆東品川：講習室、会議室、美術工芸室、視聴覚室、レクリエーションホール、スポーツ室、託児室、グループ室
 ◆旗の台：会議室、レクリエーションホール、スポーツ室、グループ室
 ◆南大井：講習室、レクリエーションホール、美術工芸室、スポーツ室、託児室、グループ室

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
貸室利用件数	件	目標	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	全文化センターの貸室利用件数
		実績	27,412	32,705	34,386		令和11年度	
貸室利用率	%	目標	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	全文化センターの貸室利用率
		実績	48.8	60.1	63.6		令和11年度	
プラネタリウム一般投影・団体投影入場者数	人	目標	11,000	46,600	46,600	46,600	46,600	五反田文化センタープラネタリウムにおける一般投影および団体投影の入場者数
		実績	9,362	13,749	12,610		令和11年度	
水泳教室参加者数	人	目標	1,500	1,700	1,700	1,700	2,000	荏原文化センター水泳教室における参加者数
		実績	1,129	1,421	1,598		令和11年度	

取組内容・実績

- ◆貸室等の貸出や改修工事など施設管理・運営業務を行った。
- ◆五反田文化センターにおいて、照明LED化工事を令和4・5年度にかけて行った。
- ◆荏原文化センターの水泳教室は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で制限していた人数を解除して通常通り行った。

指標の達成状況

- ◆各施設の利用は通常通り貸出を行い、目標に近い水準を維持することができた。
- ◆施設によっては老朽化が激しく、早急に改修工事を進める必要がある。
- ◆引き続き利用者の増加に努める。

必要性・有効性

- ◆地域密着型の施設として利用者団体協議会、5館の連携を深め機能強化を図る必要性がある。
- ◆区民の文化、スポーツ、レクリエーション等の活動の促進を図る場を提供する必要がある。施設の維持は必要不可欠である。
- ◆五反田文化センターのプラネタリウムは安価で誰もが気軽に天文に触れることができるほか、定期的にイベントを実施することで天体や宇宙に関する興味・関心を高める機会を創出でき有効である。
- ◆荏原文化センターの温水プール開放・水泳教室では水中運動を通して、区民の健康維持・増進を図り、利用者間のふれあいを深めるため必要不可欠である。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	109,663	85,392	0	24,271	77.9%
役員費	3,662	2,738	0	924	74.8%
委託料	355,029	343,215	0	11,814	96.7%
使用料及び賃借料	19,524	19,276	0	248	98.7%
工事請負費	132,213	101,882	0	30,331	77.1%
備品購入費	4,955	3,326	0	1,629	67.1%
負担金補助及び交付金	10	10	0	0	100.0%
その他	3,479	3,388	0	91	97.4%
計	628,536	559,227	0	69,309	89.0%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 85,392千円（光熱水費他）
- ◆委託料 343,215千円（窓口受付業務委託、設備管理・清掃業務委託、プラネタリウム事業等運営委託、温水プール監視業務委託他）
- ◆使用料及び賃借料 19,276千円（土地使用料、便所防臭装置賃借、スポーツ室空調設備賃借他）
- ◆工事請負費 101,882千円（照明LED化工事、防犯カメラ改修工事、塀改修および防鳥ネット設置工事他）

効率性

- ◆各施設の委託業務については文化観光戦略課でまとめて契約することで、委託料の縮減に努めている。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	77,310	70,434	-6,876
物件費	403,883	414,963	11,080
うち委託料	282,712	307,613	24,901
行政維持補修費	15,081	11,271	-3,810
扶助費	0	0	0
費用補助費等	3,050	3,378	328
減価償却費	94,288	81,668	-12,620
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	6,334	13,824	7,490
その他	50,423	69,508	19,085
小計 D	650,370	665,046	14,676
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	75,755	75,368	-387
その他	1,161	1,232	71
小計 E	76,916	76,599	-317
行政収支差額 H=E-D	-573,454	-588,447	-14,993
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-573,454	-588,447	-14,993
特別費用 小計 K	4,840	0	-4,840
特別収入 小計 L	0	1,479	1,479
特別収支差額 M=L-K	-4,840	1,479	6,319
当期収支差額 N=J+M	-578,294	-586,968	-8,674

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	6,712,772	6,693,760	-19,012
土地	4,230,821	4,230,821	0
建物	2,481,178	2,427,419	-53,759
工作物	258	30,328	30,070
重要物品	515	793	278
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	4,400	4,400
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	6,712,772	6,693,760	-19,012
流動負債 R	4,721	5,903	1,182
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	4,721	5,903	1,182
その他	0	0	0
固定負債 S	27,718	37,177	9,459
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	27,718	37,177	9,459
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	32,439	43,081	10,642
正味財産の部	6,680,333	6,650,680	-29,653
正味財産の部 合計 U	6,680,333	6,650,680	-29,653
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	6,712,772	6,693,760	-19,012

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度：12.9% 令和5年度：12.7%
- ◆施設の維持管理は委託により実施しているため、行政費用における物件費（委託料）の割合が高くなっている。
- ◆固定資産には、文化センターの建物・土地等が計上されている（東品川文化センターの土地を除く）。

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
 ◆B 継続する事業 ◆現状維持
 【説明】
 ◆基本的な事業規模は現状維持とする。

(2) 最終評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
 ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
 【説明】
 ◆指標に掲げる貸室利用件数等について目標値を達成するよう、創意工夫を凝らした施設管理および運営に努める。
 ◆アンケートなどを用いて利用者満足度を把握し、今後の施設運営に活用すること。

令和6年度 事務事業評価シート (令和5年度実施事業)

小事業名	歴史館運営費					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	文化観光費			事業	文化コミュニティ施設経費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	文化観光戦略課	担当係	品川歴史館	

1 基本情報

長期基本計画	P41	政策の柱 基本的な考え方	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり 生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画	P39	実施計画事業 現況 必要事業量	品川区の歴史の継承と魅力の発信 — —
事業期間	昭和60年度 ~	関連する個別計画等	品川歴史館リニューアル基本計画
根拠法令要綱	品川区立品川歴史館条例、品川区立品川歴史館条例施行規則、品川区立品川歴史館専門委員設置要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】
◆品川区にかかわる歴史資料を収集・保管・展示し、区民の教養の向上や学術および文化の発展に寄与する。

【事業概要】
◆品川歴史館の維持管理を行い、展示観覧者や貸出施設利用者など入館者への対応を行う。
◆品川歴史館の常設展や特別展、企画展、コーナー展など各種の展示を行う。
◆品川区にかかわる歴史資料を収集・保管し、調査研究を行う。
◆歴史講座、古文書講座などの講座・講演会を実施する。
◆本館および茶室の大規模改修工事を行うとともに展示内容を全面リニューアルする。
◆大規模改修工事に伴う休館期間中、区内各地域（品川・大崎・大井・荏原・八潮）で巡回展を実施する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
観覧者数	人	目標	15,000	3,000	0	20,000	20,000	年間の展示観覧者数（観覧料免除者含む）
		実績	12,801	3,236	0		令和11年度	
貸出施設利用者数	人	目標	6,000	1,500	0	7,000	7,000	貸出施設（講堂・書院・茶室）の年間利用者数
		実績	2,884	279	0		令和11年度	
歴史講座受講者数	人	目標	50	120	60	210	280	歴史講座の受講者延べ人数
		実績	47	102	34		令和11年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績

- ◆前年度に引き続き、本館の大規模改修工事を進め、令和5年8月末に竣工した。
- ◆展示の全面リニューアルを進め、展示物製作・設置を令和5年12月末に完了した。
- ◆工事終了後、収蔵資料約50,000点、図書約20,000冊を外都専門倉庫から館内収蔵庫へ搬入し、令和6年3月下旬に燻蒸を実施、全ての作業が完了した。
- ◆茶室の大規模改修工事を進め、令和6年3月15日に竣工した。
- ◆休館中、博物館活動を幅広く区民の方に紹介し、あわせて区内各地域の風景の移り変わりを身近な場所で見ていただけるよう、区内公共施設を会場とした巡回展を開催した。大崎地区は総合体育館（令和5年5~6月）、大井地区は南大井文化センター（令和5年8月）、八潮地区はこみゆにていぶらざ八潮（令和5年10~11月）で開催した。

指標の達成状況

- ◆令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、観覧者数、施設利用者数ともに目標を達成できない状況が続いた。
- ◆令和4年度は7月から休館に入ったため開館期間が短かったが、休館前最後のコーナー展の観覧者数は目標を上回った。
- ◆令和5年度は大規模改修工事に伴う休館のため、観覧者数・貸出施設利用者数は計画・実績ともに0だった。
- ◆歴史講座は令和5年度は仮移転先での1回実施にとどまり、受講者数も目標に届かなかった。テーマや実施時期を検討し、受講者の増に努める。

必要性・有効性

- ◆品川区にかかわる歴史資料の収集・保存・公開・調査研究を担う施設として必要不可欠である。
- ◆令和5年度の巡回展は、身近な施設で実施することで、区民が地域の歴史を知る機会を持つという点で非常に有効であった。
- ◆子どもをはじめとした区民や区外の方に対して品川区の歴史と文化を伝える場であり、文化観光・交流拠点としての役割を果たすことが必要である。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	47,021	40,873	0	6,148	86.9%
役員費	63,720	60,953	0	2,767	95.7%
委託料	658,576	656,816	0	1,760	99.7%
使用料及び賃借料	159	149	0	10	93.7%
工事請負費	1,020,555	1,018,065	0	2,490	99.8%
備品購入費	19,000	12,485	0	6,515	65.7%
負担金補助及び交付金	100	76	0	24	76.0%
その他	3,487	1,615	0	1,872	46.3%
計	1,812,618	1,791,031	0	21,587	98.8%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 40,873千円（初年度調弁、光熱水費他）
- ◆役員費 60,953千円（収蔵資料等運搬保管業務委託、粗大ごみ収集運搬処分他）
- ◆委託料 656,816千円（展示リニューアル・設置業務委託、大規模改修工事監理業務委託他）
- ◆工事請負費 1,018,065千円（品川歴史館大規模改修工事他）

効率性

- ◆執行率は98.8%と高く、適正かつ効率的に執行している。
- ◆備品購入費は、初年度調弁にあたり購入物品を精査した結果、執行率65.7%にとどまった。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	35,104	50,551	15,447
物件費	141,776	703,219	561,443
うち委託料	84,140	630,977	546,837
維持補修費	1,329	1,205	-124
扶助費	0	0	0
補助費等	1,406	1,553	147
減価償却費	8,740	8,354	-386
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	3,619	9,733	6,114
その他	908	171,386	170,478
小計 D	192,883	946,000	753,117
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	237	0	-237
その他	1,332	108	-1,224
小計 E	1,569	108	-1,461
行政収支差額 H=E-D	-191,314	-945,892	-754,578
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-191,314	-945,892	-754,578
特別費用 小計 K	758	0	-758
特別収入 小計 L	0	0	0
特別収支差額 M=L-K	-758	0	758
当期収支差額 N=J+M	-192,072	-945,892	-753,820

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	1,562,401	3,035,019	1,472,618
土地	1,447,450	1,447,306	-144
建物	88,415	1,562,164	1,473,749
工作物	4,590	4,320	-270
重要物品	21,946	21,230	-716
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	1,562,401	3,035,019	1,472,618
流動負債 R	2,365	4,156	1,791
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	2,365	4,156	1,791
その他	0	0	0
固定負債 S	21,558	26,176	4,618
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	21,558	26,176	4,618
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	23,923	30,332	6,409
正味財産の部	1,538,478	3,004,687	1,466,209
正味財産の部合計 U	1,538,478	3,004,687	1,466,209
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	1,562,401	3,035,019	1,472,618

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 20.1% 令和5年度: 6.4%
- ◆同年の大規模改修工事に伴う休館により、行政収入が大幅減となった。
- ◆大規模改修工事に伴う初年度調弁および資料移転を行ったため、物件費が大幅増となった。
- ◆固定資産には、品川歴史館の建物、土地等が計上されており、大規模改修工事に伴う大幅な増となった。

6 評価

(1) 所管評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆C 改善・見直しする事業 ◆取組みの一部廃止
- 【説明】
- ◆歴史館リニューアルが計画どおり進み、新しい文化観光・交流拠点として再開館したため、リニューアル事業については完了となる。

(2) 最終評価

- 【評価結果・今後の取組の方向性】
- ◆C 改善・見直しする事業 ◆取組みの一部廃止
- 【説明】
- ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	地域スポーツ支援					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	地域スポーツ等推進経費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係	地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱 基本的な考え方	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり 多様な活動を支援する
総合実施計画	P32	実施計画事業 現況 必要事業量	オリンピック・パラリンピックを契機とする文化スポーツ活動の推進 — —
事業期間	昭和57年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】
◆区民の生涯にわたる自主的なスポーツ・レクリエーション活動の環境を整備し、地域スポーツの推進を図る。

【概要】
◆地域が主体となり運営する区内の地域スポーツクラブにおいて各種スポーツ教室やイベント（スポーツ大会等）を実施し、地域でのスポーツ活動を推進し、誰でもスポーツに参加できる環境を整備する。
◆パラスポーツチャレンジデーやユニバーサルスポーツフェスタ等を実施し、障害者理解の促進を図り、共生社会の実現を目指す。
◆令和3年度に誕生した区をホームタウンとするプロスポーツチームと連携し、小学生を対象としたスポーツ教室を実施し、もっと上手になりたいという「する」スポーツの推進とプロスポーツを親観したいという「みる」スポーツの推進の相乗効果を図る。
◆区民マラソン大会について、コース等の見直しを行い、しながわシティランとしてリニューアルし、区民がランナー、ボランティア、応援など様々な形で参加し、区民みんなが輝く大会とする。
◆デフサッカーの開催に伴い、デフスポーツの周知・啓発を行うことにより、聴覚障害の理解促進、共生社会の実現に寄与する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	目標 (達成年度)	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
スポーツ教室・イベント実施数	回	目標	82	82	83	84	84	各地域スポーツクラブにおける区委託事業のスポーツ教室・イベント数
		実績	37	75	80		令和11年度	
障害者スポーツ事業実施回数(延)	回	目標	18	28	28	28	28	各年度に実施する事業の延べ回数
		実績	8	23	21		令和11年度	
ホームゲーム開催数	回	目標	3	11	12	15	20	区立のアリーナで開催されるプロスポーツのホームゲームの年間試合数
		実績	3	11	14		令和11年度	
シティマラソン大会実施回数	回	目標				1	1	シティマラソン大会の実施回数
		実績					令和 6年度	

取組内容・実績

◆各種スポーツ教室等の参加者は前年度と同規模の延べ12,971人の参加があった。
◆パラスポーツ体験イベント(パラスポーツチャレンジデー等)や障害者スポーツ教室(障害者フライングディスク教室等)、区内の団体等に講師を派遣するポッチャ出前体験教室を実施した。また、区民参加のポッチャ大会(ポッチャしながわCUP)を初開催した。
◆区立アリーナでプロスポーツの公式戦を14試合(フットサル6試合、バスケットボール8試合)開催した。また、プロスポーツチームと連携して、小学生を対象としたプロスポーツ選手による教室を計12回実施した。
◆しながわシティランの開催を目指し、実行委員会を設置し、大会要項やコース等を決定した。また、警備計画等の策定や関係機関等との調整を進めるほか、大会公式ロゴマークを公募で選定し、プレ大会として開催した区民マラソン大会で受賞者の表彰式を行った。
◆デフサッカー日本代表候補合宿時のトレーニングマッチ親観のほか、デフスポーツ体験会や手話関連ワークショップ等を実施した。

指標の達成状況

◆ほとんどの地域スポーツクラブ事業を予定通り開催することができ、前年度から実施回数も増えたため、目標数値に近づいている。
◆4年ぶりにパラスポーツチャレンジデーをふくしまつりと合同開催し、前年度を超える1,178人の参加があった。また、ポッチャ出前体験教室など各種パラスポーツ体験を通じた障害者理解の促進やパラスポーツの普及・啓発に取り組んだ。
◆プロスポーツ公式戦は14試合で合計約5,000人が観戦し、前年度より約1,800人増加し、「みる」スポーツの推進に寄与している。
◆令和5年度はしながわシティラン実行委員会を設置し、大会要項やコースの決定を行い、警察等関係機関等との調整を進め、各種大会運営計画を策定した。今後も関係機関等との調整を着実に進めるとともに、大会運営マニュアルを作成し、開催に伴う交通規制等について広く周知を行う。また、大会を共に育てていただくパートナーとして協賛企業・団体の募集を開始するほか、参加者、ボランティアの募集を行うなど、着実に準備を進め、令和7年3月に大会を開催する。

必要性・有効性

◆年間を通じて身近な地域でスポーツをする機会を提供しており、地域に根付いた事業も多くある。スポーツを通じて、人と人とのつながりをより強くし、地域の活性化を図るうえで事業の有効性は高い。
◆近年、ポッチャ競技をはじめとしたパラスポーツへの関心が高まっており、パラスポーツ体験イベントなどを通じてパラスポーツに親しむ・知る機会を提供することが必要である。
◆令和3年度に策定した品川区スポーツ推進計画において、「みる」スポーツの視点を加えた取組みを推進することとしており、プロスポーツチームとの連携は有効性が高いが、公式戦を行う会場の確保等が課題となっている。
◆しながわシティランの開催を通じて区の魅力を区内外に発信するとともに、区民がランナー、ボランティア、応援など様々な形で参加し、みんなが輝く大会とすることで、区民のシビックプライドの醸成に期待できる。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	3,050	2,272	0	778	74.5%
役員費	308	153	0	155	49.7%
委託料	26,694	24,420	0	2,274	91.5%
使用料及び賃借料	93	83	0	10	89.2%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	6,100	6,045	0	55	99.1%
その他	7,884	5,453	0	2,431	69.2%
計	44,129	38,426	0	5,703	87.1%

決算額の主な内訳

◆委託料 24,420千円(パラスポーツチャレンジデー運営委託、デフスポーツ啓発イベント運営委託他)
◆負担金補助及び交付金 6,045千円(しながわシティラン開催準備負担金他)

効率性

◆前年度と比べて不用額も減少し、全体の執行率は昨年度の81.03%から6.07ポイント上昇し、87.1%と高い水準となった。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	35,081	36,290	1,209
物件費	30,011	27,494	-2,517
うち委託料	25,528	24,420	-1,108
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	966	6,576	5,610
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	1,810	6,654	4,844
その他	0	0	0
小計 D	67,868	77,014	9,146
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	420	1,000	580
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	420	1,000	580
行政収支差額 H=E-D	-67,448	-76,014	-8,566
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-67,448	-76,014	-8,566
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	1,011	0	-1,011
特別収支差額 M=L-K	1,011	0	-1,011
当期収支差額 N=J+M	-66,437	-76,014	-9,577

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	1,810	2,957	1,147
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	1,810	2,957	1,147
その他	0	0	0
固定負債 S	16,916	20,353	3,437
特別区債	0	0	0
退職給付引当金	16,916	20,353	3,437
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	18,726	23,309	4,583
正味財産の部	-18,726	-23,309	-4,583
正味財産の部 合計 U	-18,726	-23,309	-4,583
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴事項

◆人員費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和 4年度: 54.4% 令和 5年度: 55.8%
◆しながわシティラン実行委員会の設立に伴い、開催準備経費を分担金として支出したことで、補助費等の支出が令和4年度比で約7倍に増加した。
◆流動・固定負債には、翌年度以降支出が見込まれる職員賞与・退職給付のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆B 継続する事業 ◆計画・規定どおり

【説明】

◆品川区スポーツ推進計画の基本理念である「スポーツの力でつなぐ みんなの笑顔が輝くまち しながわ」の実現に向け、これまで以上に地域スポーツクラブや区内のスポーツ活動団体等と連携し、誰もが気軽にスポーツに親しみ、楽しめる環境づくりに継続して取り組むとともに、しながわシティランの開催を通じて、区の魅力を区内外に発信し、区民のシビックプライドの醸成を図る。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆B 継続する事業 ◆計画・規定どおり

【説明】

◆所管評価に同意する。なお、品川区スポーツ推進計画に則り、指標に掲げるスポーツ教室・イベント実施数等の目標を達成するよう努めるとともに、しながわシティランについては、引き続き協賛金の獲得に努め、持続可能な大会となるよう創意工夫を図る。

令和6年度 事務事業評価シート (令和5年度実施事業)

小事業名	地域スポーツ施設開放				
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項
	目	スポーツ推進費			地域振興費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課	担当係	地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和29年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】
 ◆区民の地域でのスポーツ活動を促進するため、区立学校等の体育館・校庭・温水プール等の施設を開放する。

【概要】
 ◆47校（区立小学校31校・中学校9校・義務教育学校6校・その他1校）の体育館・校庭・教室を開放する。
 ◆10校（区立小学校7校・中学校3校）の校庭・屋外プールについて、種目を指定（テニス・学校プール夏季一般開放）した上で開放する。
 ◆5校（区立中学校1校・義務教育学校4校）の温水プールを開放する。
 ◆八潮公園多目的広場を身近な地域で屋外スポーツを楽しめるよう開放する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
学校施設の開放利用人数	人	目標	707,000	970,000	970,000	1,100,000	1,100,000	学校施設の開放における利用延べ人数
		実績	688,089	965,247	1,081,435		令和11年度	
学校スポーツ開放利用人数	人	目標	3,200	3,900	3,900	4,200	4,200	学校スポーツ開放における利用延べ人数
		実績	1,350	3,679	4,187		令和11年度	
学校温水プール開放利用人数	人	目標	176,000	236,000	205,000	205,000	205,000	学校温水プール開放における利用延べ人数
		実績	126,113	157,750	170,492		令和11年度	
八潮公園多目的広場の開放利用人数	人	目標	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	八潮公園多目的広場の開放における利用延べ人数
		実績	10,455	13,040	12,415		令和11年度	

取組内容・実績

- ◆学校施設の予約に当たっては、区内17地区で学校施設の利用調整会議・ブロック会議が毎月開催され、各地域スポーツクラブおよびスポーツ推進委員が運営を行っている。
- ◆学校等にシルバー人材センター等への委託による施設管理員を配置し、施設開放の管理業務を行った。
- ◆学校施設の申請手続について、令和6年度より品川区施設予約システムでの予約管理を行うため、学校・団体等と調整を行った。

指標の達成状況

- ◆令和5年度の総利用人数は前年度から約1.1倍に増加した。
- ◆学校温水プールについては、令和元年度以前の水準には戻り切っていないものの、令和5年5月より新型コロナウイルス感染症による利用制限を廃止したことで、利用人数は前年度から約1.1倍に増加した。

必要性・有効性

- ◆区内全域で、身近な地域でスポーツをする機会を提供しており、区民の自主的なスポーツ活動の促進に大きく寄与している。
- ◆利用調整会議・ブロック会議は、単なる施設の予約だけでなく、地域で行うスポーツ教室等の検討・周知の場にもなっており、各地域スポーツクラブの活動を上げていく上でも重要な役割を担っている。

4 予算・決算（概要）

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	9,123	4,838	0	4,285	53.0%
役員費	332	66	0	266	19.9%
委託料	326,584	314,018	0	12,566	96.2%
使用料及び賃借料	4,989	4,988	0	1	100.0%
工事請負費	1,122	1,117	0	5	99.6%
備品購入費	1,200	512	0	688	42.7%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	100	82	0	18	82.0%
計	343,450	325,620	0	17,830	94.8%

決算額の主な内訳

- ◆委託料 314,018千円（学校施設開放・温水プール管理業務委託他）
- ◆使用料及び賃借料 4,988千円（旧在原第四中学校屋内運動場空調設備賃借他）

効率性

◆執行率は94.8%と高くなっているが、最低賃金の上昇等により、学校等施設開放管理業務に係る人件費は増加傾向にあり、委託料が占める割合は全体の約96.4%となっている。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	11,600	12,487	887
物件費	317,123	324,369	7,246
うち委託料	300,523	314,018	13,495
維持補修費	99	1,117	1,018
行政扶助費	0	0	0
補助費等	185	134	-51
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	682	2,597	1,915
その他	0	0	0
小計 D	329,688	340,703	11,015
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	49,214	53,500	4,286
その他	265	294	29
小計 E	49,478	53,794	4,316
行政収支差額 H=E-D	-280,210	-286,909	-6,699
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-280,210	-286,909	-6,699
特別費用 小計 K	1,841	0	-1,841
特別収入 小計 L	383	0	-383
特別収支差額 M=L-K	-1,459	0	1,459
当期収支差額 N=J+M	-281,668	-286,909	-5,241

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	682	1,154	472
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	682	1,154	472
その他	0	0	0
固定負債 S	6,401	7,942	1,541
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	6,401	7,942	1,541
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	7,082	9,096	2,014
正味財産の部	-7,082	-9,096	-2,014
正味財産の部合計 U	-7,082	-9,096	-2,014
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 3.7% 令和5年度: 4.4%
- ◆旧在原第四中学校の体育館の外壁工事の実施に伴い、維持補修費の支出が11倍以上に増加した。
- ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

- ◆身近な地域でスポーツができる場を引き続き提供することにより、区民のスポーツ・レクリエーション活動を推進する。
- ◆学校施設開放の申請手続については、現在、紙の申請書・納付書を用いて行われていることから、団体・学校の負担軽減を図るため、品川区施設予約システムを活用したオンラインによる申請および支払の導入を進めていく。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

- ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	少年少女スポーツ普及事業					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	地域スポーツ等推進経費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係	少年少女スポーツ担当

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和52年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画、スポーツ開放実施要綱、品川区青少年健全育成者(スポーツ)感謝状贈呈要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少年少女スポーツ大会 少年少女各種スポーツ大会を実施し、仲間づくりを通じて肉体的・精神的な健全育成を図る。 少年少女スポーツ開放 スポーツ活動の場として、学校校庭・地域広場等を開放する。 青少年健全育成表彰 少年野球、少年少女サッカー、小学生バレーボール、ミニバスケットボール等の青少年のスポーツ活動において、育成者を表彰することにより青少年の健全育成に携わる指導者層の拡大につなげる。 ジュニアスポーツ拡大・定着プロジェクト 子どものスポーツに親しむ習慣や意欲を養うことで、積極的にスポーツをする子どもとしないうちの二極化を解消し、体力の向上を図るとともに、ジュニアスポーツの裾野の拡大とスポーツ習慣の定着を図る。
-------	---

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (達成年度)	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
少年少女スポーツ大会参加者数	人	目標	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	少年少女スポーツ大会の参加者数
		実績	2,183	3,801	3,598		令和11年度	
少年少女スポーツ開放利用者数	人	目標	40,000	45,000	45,000	45,000	50,000	少年少女スポーツ開放(荏原平塚学園・品川学園・ひらさん広場)の利用者数
		実績	34,704	40,061	36,371		令和11年度	
品川区青少年健全育成者感謝状贈呈者数	人	目標	50	50	50	50	50	品川区青少年健全育成者感謝状贈呈者数(特別表彰・普通表彰含む)
		実績	30	15	25		令和11年度	
親子でジュニアスポーツフェスタ参加者数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,500	2,500	親子でジュニアスポーツフェスタの参加者数
		実績	0	1,808	2,414		令和11年度	

取組内容・実績

◆各少年少女スポーツ団体等と共催し、4種目8大会を実施し、参加者は3,598人であった。
 ◆少年少女スポーツ団体の活動の場として、品川学園・荏原平塚学園・ひらさん広場等の施設開放を実施した。
 ◆品川区青少年健全育成者(スポーツ)感謝状贈呈式を2月に実施し、25人に感謝状を贈呈した。
 ◆2回目の開催となる親子でジュニアスポーツフェスタを総合体育館で実施し、2,414人の参加があった。地域のスポーツ団体に協力を依頼し、スポーツ体験だけではなく、地域のクラブ紹介なども実施し、継続したスポーツ環境の提供ができる仕組みとした。

指標の達成状況

◆少年少女スポーツ大会は、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響によりすべての大会を中止としたが、令和3年度より大会を再開し、令和4年度以降の大会参加者数は、令和元年度以前と同等程度となっている。
 ◆少年少女スポーツ開放は、熱中症対策により夏季期間の利用が減ったことで、令和5年度の利用者数は令和4年度と比較してやや減少している。
 ◆親子でジュニアスポーツフェスタは2回目の開催で、前年の経験を活かしながら効果的に区民に周知したこともあり、目標を超える参加者数となった。

必要性・有効性

◆子どもの頃からスポーツに親しむことは、体の基礎や体力・運動能力を身に付け、他者との協調性や自信などを育み、大人になってからもスポーツを楽しみたいと思う気持ちを醸成することにつながるため、少年少女スポーツの普及の必要性・有効性は高い。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	4,173	3,730	0	443	89.4%
役員費	69	35	0	34	50.7%
委託料	9,982	9,899	0	83	99.2%
使用料及び賃借料	727	629	0	98	86.5%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	368	320	0	48	87.0%
負担金補助及び交付金	3,947	3,916	0	31	99.2%
その他	255	220	0	35	86.3%
計	19,521	18,750	0	771	96.1%

決算額の主な内訳

◆委託料 9,899千円(親子でジュニアスポーツフェスタ運営委託他)
 ◆負担金補助及び交付金 3,916千円(全国大会出場助成金他)

効率性

◆親子でジュニアスポーツフェスタについて、簡易型プロポーザル方式により委託事業者を選定し、効率的・効果的な事業運営を行った。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	9,106	6,863	-2,243
物件費	11,132	14,613	3,481
うち委託料	8,170	9,899	1,729
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	4,996	4,136	-860
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	544	1,461	917
その他	0	0	0
小計 D	25,778	27,074	1,296
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-25,778	-27,074	-1,296
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-25,778	-27,074	-1,296
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	301	0	-301
特別収支差額 M=L-K	301	0	-301
当期収支差額 N=J+M	-25,477	-27,074	-1,597

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	0	0
流動負債 R	544	649	105
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	544	649	105
その他	0	0	0
固定負債 S	5,029	4,468	-561
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	5,029	4,468	-561
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	5,573	5,117	-456
正味財産の部	-5,573	-5,117	456
正味財産の部 合計 U	-5,573	-5,117	456
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:37.4% 令和5年度:30.7%
 親子でジュニアスポーツフェスタ等委託事業を拡充したため、物件費(委託料)の支出が増加し、行政費用に占める物件費の割合が50%超となった。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
 ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
 【説明】
 ◆少年少女スポーツ大会および少年少女スポーツ開放については、日頃のスポーツ活動の機会や成果発表の場として継続していく。
 ◆ジュニアスポーツ拡大・定着プロジェクトについては、幅広い年齢層の子どもが多様な種目を体験できるようメニューの見直しおよび拡充を図る。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
 ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
 【説明】
 ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	オリンピック・パラリンピックススポーツ等振興事業					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	地域スポーツ等推進経費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係	スポーツ振興担当

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツによるまちの活性化を推進する
総合実施計画	P32	実施計画事業	オリンピック・パラリンピックを契機とする文化スポーツ活動の推進
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成25年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆東京2020大会のレガシーに係る事業、その他のスポーツ振興を通じた地域活性化を図る。
【概要】	◆ホッケー教室・大会の実施、観戦ツアーの実施 区応援競技であるホッケーの普及啓発を図る。区応援競技を中心に、様々な競技の試合観戦・競技体験を行うツアーを実施する。 ◆しながわホッケー地域応援プロジェクト 年間を通して、区・日本ホッケー協会・地域がチームとして連携し、ホッケー競技の応援企画を実施する。 ◆ブラインドサッカー体験・国内大会の実施 区応援競技であるブラインドサッカーの普及啓発およびバラスポーツへの理解促進を図る。 ◆旧東品川清掃作業所暫定活用 旧東品川清掃作業所を文化・スポーツを起点としたまちのにぎわいを創出する場「アイルしながわ」として暫定活用する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	目標 (達成年度)	指標の定義
			(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
ホッケー教室参加者数	人	目標	220	360	360	360	360	ホッケー教室の参加者延べ人数
		実績	217	338	320		令和11年度	
ホッケー地域応援プロジェクト来場者数	人	目標			2,600	2,600	2,600	大井ホッケー競技場で行われたホッケー国際親善試合 1試合の来場者数
		実績			1,700		令和11年度	
ブラインドサッカー国内大会実施回数	回	目標	1	2	2	2	2	ブラインドサッカー国内大会の実施回数 ※令和3年度は無観客開催
		実績	1	2	2		令和11年度	
アイルしながわ利用件数	件	目標		450	1,300	1,500	1,800	アイルしながわ(旧東品川清掃作業所)の利用件数
		実績		394	1,028		令和 8年度	

取組内容・実績

◆ホッケー教室ではウォーターホッケー等、各回内容を変更して実施し、参加者がホッケーをより楽しめるプログラムを展開した。
 ◆ホッケー地域応援プロジェクトでは、地域団体や地元企業を巻き込むことで、地域が一体となって区応援競技であるホッケーを盛り上げ、国際親善試合の2日間で約3,100人の来場者があった。また、バリオリンピック予選大会のパブリックビューイングの開催や日本代表選手による商店街訪問、区を拠点とするチームへの支援など、年間を通じ地域に根差したホッケーの普及活動を行った。
 ◆ブラインドサッカーの国内大会では、地域に根ざした地域リーグに加え、競技性・興行性を重視したトップリーグも開催し、より一層のバラスポーツの周知・啓発と障害者理解の促進に努めた。
 ◆アイルしながわ(旧東品川清掃作業所)の暫定活用を行うに当たり、スポーツ団体の利用をはじめ、地域のにぎわいイベントの場として活用した。またバラスポーツ体験教室等のにぎわいイベントと同時開催し、バラスポーツの普及・啓発を行った。

指標の達成状況

◆実施したホッケー教室には、定員120人に対して600人を超える申込回もあったことから、需要が高いことが読み取れた。
 ◆ホッケー地域応援プロジェクトについては、大井ホッケー競技場での国際親善試合に合わせてイベント開催し、2日間で約3,100人の参加者があり、ホッケーを通じた地域のにぎわいづくりに寄与した。
 ◆ブラインドサッカー国内大会については、令和4年度よりトップリーグを誘致したことで、年間2大会(地域リーグおよびトップリーグ)の開催を実現し、バラスポーツの周知・啓発に効果があった。
 ◆アイルしながわ(旧東品川清掃作業所)は、土日や夜間の利用率は比較的高いが、平日昼間や夕方の利用率が低いことから施設の利用率は目標数値を下回った。

必要性・有効性

◆大井ホッケー競技場を有効活用する事業を展開することで、ホッケーを通じたまちのにぎわいづくりおよび「する」スポーツの観点から有効性は高い。
 ◆ホッケー地域応援プロジェクトでは、年間を通してホッケーに親しめる場を提供し、ホッケーの認知度向上に寄与するとともに、まちのにぎわいが図れたことから有効性は高い。
 ◆ブラインドサッカー国内大会は「みる」スポーツの機会の創出と、バラスポーツの認知度向上および共生社会の実現の観点から事業の有効性は高い。
 ◆アイルしながわ(旧東品川清掃作業所)はスポーツ団体をはじめとした文化・スポーツ団体の活動機会創出の場として利用されている。また地域のにぎわいイベントに資する利用もあり、地域活性化の観点からも施設を運営する有効性は高い。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	5,702	2,770	0	2,932	48.6%
役員費	101	54	0	47	53.5%
委託料	46,585	45,558	0	1,027	97.8%
使用料及び賃借料	693	680	0	13	98.1%
工事請負費	2,000	2,000	0	0	100.0%
備品購入費	2,971	2,970	0	1	100.0%
負担金補助及び交付金	31,000	31,000	0	0	100.0%
その他	198	168	0	30	84.8%
計	89,249	85,200	0	4,049	95.5%

決算額の主な内訳

◆委託料 45,558千円(アイルしながわ(旧東品川清掃作業所)暫定活用、ブラインドサッカー東日本リーグ他)
 ◆負担金補助及び交付金 31,000千円(しながわホッケー地域応援プロジェクト負担金、ブラインドサッカートップリーグ負担金)

効率性

◆アイルしながわ(旧東品川清掃作業所)暫定活用、しながわホッケー地域応援プロジェクト、ブラインドサッカートップリーグなどの事業を計画通りに実施できたため、予算全体の執行率が高くなっている。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	29,740	40,130	10,390
物件費	58,176	51,545	-6,631
うち委託料	52,665	45,022	-7,643
維持補修費	165	2,000	1,835
扶助費	0	0	0
補助費等	40,350	31,119	-9,231
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	1,844	8,277	6,433
その他	160,696	536	-160,160
小計 D	290,971	133,607	-157,364
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	4,000	4,209	209
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	1,720	777	-943
小計 E	5,720	4,986	-734
行政収支差額 H=E-D	-285,251	-128,621	156,630
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-285,251	-128,621	156,630
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	984	0	-984
特別収支差額 M=L-K	984	0	-984
当期収支差額 N=J+M	-284,267	-128,621	155,646

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	3,673,523	3,673,523	0
土地	3,098,086	3,098,086	0
建物	470,091	470,091	0
工作物	105,346	105,346	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	3,673,523	3,673,523	0
流動負債 R	1,844	3,678	1,834
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	1,844	3,678	1,834
その他	0	0	0
固定負債 S	16,459	25,317	8,858
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	16,459	25,317	8,858
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	18,303	28,994	10,691
正味財産の部	3,655,220	3,644,529	-10,691
正味財産の部合計 U	3,655,220	3,644,529	-10,691
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	3,673,523	3,673,523	0

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:10.9% 令和5年度:36.2%
 ◆令和4年度はアイルしながわ(旧東品川清掃作業所)を開設したため、その他(投資的経費)の割合が大きかったが、令和5年度については、設備の軽微な工事のみだったため、その他(投資的経費)の支出が大きく減少した。
 ◆固定資産には、アイルしながわ(旧東品川清掃作業所)の土地、建物等が計上されている。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
 ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
 【説明】
 ◆東京2020大会のレガシーとして幅広く事業展開を行ってきたが、各事業を再度精査し、実施方法などについて改善・見直しを検討する。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
 ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
 【説明】
 ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	野外活動事業					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	野外活動事業
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係	少年少女スポーツ担当

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和54年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場利用要綱		

2 事業の目的・概要

目的・概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆キャンプ場運営 青少年健全育成の一環として野外活動やキャンプ活動を行う目的で設置したキャンプ場を円滑に運営するため、施設管理業務を行う。 ◆野外活動事業 区民が野外活動を通じて自然に接し、親しむことができるよう、初心者向けおよびファミリー向けのキャンプ教室を実施する。
-------	--

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場利用者数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場の利用者数
		実績	468	1,238	1,313		令和11年度	
品川キャンピングベース参加組数	組	目標		56	112	112	112	品川キャンピングベースの参加組数(1組5人まで)
		実績		46	95		令和11年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績

- ◆青少年育成団体が安全に活動できるよう施設の維持管理を行うとともに、週1回の清掃・巡回等の業務を行い、年間1,313人の利用があった。
- ◆みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場を夏季休業期間中(7月末~8月上旬)に開放し、初心者が気軽にキャンプを体験できるよう品川キャンピングベース(初心者ファミリーキャンプ教室)を実施した。令和5年度は前年度から参加者数が倍増しており、キャンプ需要の高さを伺える結果となった。

指標の達成状況

◆みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場利用者数について、令和5年度も利用者数は増加しているが、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度の利用者数(1,803人)には、戻りきれていない。
 ◆令和3年度まで実施していた初心者キャンプ教室(日帰り)を廃止し、令和4年度よりキャンプ初心者のファミリーを主な対象とした品川キャンピングベース(1泊2日)を実施している。目標値には達しなかったが、令和5年度は前年度に比べて多くの参加者が集まった。

必要性・有効性

◆野外活動事業は、自然体験や非日常での体験を通じて、子どもたちの体力向上や自己肯定感を高めることに有効である。また、青少年の健全育成を目的とした開放事業以外に、全世代を対象とした一般開放事業を展開することで、幅広い世代の区民が自然体験をすることにつながるため、野外活動事業の推進は必要である。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	390	120	0	270	30.8%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	3,596	3,595	0	1	100.0%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	10	0	0	10	0.0%
計	3,996	3,715	0	281	93.0%

決算額の主な内訳

◆委託料 3,595千円(キャンプ場清掃業務委託、野外活動事業運営委託)

効率性

◆清掃業務や野外活動事業の運営を委託化することにより効率的に執行している。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円) ②貸借対照表 (千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	1,657	2,372	715
物件費	3,447	3,715	268
うち委託料	3,317	3,595	278
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	0	0	0
費用減価償却費	231	231	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	97	487	390
その他	499	0	-499
小計 D	5,932	6,805	873
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-5,932	-6,805	-873
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-5,932	-6,805	-873
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	55	0	-55
特別収支差額 M=L-K	55	0	-55
当期収支差額 N=J+M	-5,877	-6,805	-927

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	3,923	3,692	-231
土地	0	0	0
建物	2,532	2,386	-146
工作物	1,391	1,306	-85
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	3,923	3,692	-231
流動負債 R	97	216	119
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	97	216	119
その他	0	0	0
固定負債 S	914	1,489	575
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	914	1,489	575
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	1,012	1,706	694
正味財産の部	2,912	1,987	-925
正味財産の部合計 U	2,912	1,987	-925
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	3,923	3,692	-231

特徴的事項

- ◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度: 29.6% 令和5年度: 42.0%
- 固定資産には、みなとが丘ふ頭公園品川区キャンプ場の建物、工作物が計上されている。

6 評価

(1) 所管評価	<p>【評価結果・今後の取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善 <p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆キャンプ場の維持管理を適切に行うことにより、貴重な自然体験の場として開放するとともに、キャンプ需要の高まりを受け、幅広い世代の参加者が楽しめるよう事業内容の見直しおよび実施方法の工夫を図る。
(2) 最終評価	<p>【評価結果・今後の取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善 <p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	区民スポーツ大会					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	区民スポーツ大会
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課	担当係	地域スポーツ推進係	

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	多様な活動を支援する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和26年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	スポーツ基本法、第3期スポーツ基本計画		

2 事業の目的・概要

目的・概要

【目的】

- ◆区民のスポーツの祭典として、日頃スポーツに親しむ区民がその成果を発揮するとともに、参加者間の親睦を図り、区民スポーツの振興を図る。
- ◆「水と緑の市町村との交流事業」の一環として、山北町においてスポーツを通じての交流・親睦を図るとともに、スポーツの普及とレベルアップを図る。

【概要】

- ◆(公財)品川区スポーツ協会と共催し、品川区民スポーツ大会を年4季(春季・夏季・秋季・冬季)開催する。
- ◆品川区民スポーツ大会マラソン大会(以下「区民マラソン大会」という。)等の入賞者(10名程度)を山北町主催の丹沢湖ハーフマラソン大会に派遣する。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
品川区民スポーツ大会参加者数	人	目標	12,500	12,500	12,500	12,600	13,000	品川区民スポーツ大会の参加者延べ人数
		実績	5,371	9,975	12,127		令和11年度	
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

取組内容・実績

◆当初は52種目の開催を予定していたが、開催に必要な参加者数に満たなかったことや、改修工事等の会場都合によって6種目を中止とし、46種目を実施した(令和4年度は47種目実施)。

◆区民マラソン大会をしながわシティランのプレ大会として開催し、しながわシティランロゴマーク受賞者の表彰式および大会周知のPRを行った。また、参加者募集に当たり、近隣の小学校全生徒にチラシを配布したほか、SNS等でも広く周知したことにより、令和4年度と比べると参加者は3.5倍以上に増加した(区民マラソン大会はしながわシティランの開催に伴い令和5年度をもって終了)。

指標の達成状況

◆令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による参加控えも解消されてきたため、令和4年度と比べると参加者数は2,000人以上増加し、コロナ禍以前の水準に戻ってきている(新型コロナウイルス感染症による影響がなかった平成30年度の参加者数は12,293人)。

必要性・有効性

◆品川区民スポーツ大会は年間50種目以上の大会を開催しており、日頃からスポーツ活動を行っている区民がその成果を発揮できる場として重要な役割がある。

◆品川区民スポーツ大会を開催することで、生涯を通じてスポーツ活動に参加できる機会の充実を図り、区民の健康づくりや生きがいづくりへの効果が期待できる。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.0%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	110	109	0	1	99.1%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	22,960	21,826	0	1,134	95.1%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	23,070	21,935	0	1,135	95.1%

決算額の主な内訳

◆負担金補助及び交付金 21,826千円(品川区民スポーツ大会分担金)

効率性

◆新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていたスポーツ交流事業(丹沢湖ハーフマラソン大会への品川区代表選手派遣)を4年ぶりに実施することができ、委託料の執行率が99.1%となった(令和2年度~令和4年度は執行率0%)。

◆全体の参加者数は目標値に近い実績を達成することができたが、大会開催に必要な参加者が集まらず中止となった種目があるため、募集方法、申込方法などを見直していく必要がある。

5 財務情報

①行政コスト計算書 (千円)				②貸借対照表 (千円)			
勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)	勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	4,143	2,226	-1,917	流動資産 0	0	0	0
物件費	0	109	109	収入未済	0	0	0
うち委託料	0	109	109	不納欠損引当金	0	0	0
維持補修費	0	0	0	その他	0	0	0
行政扶助費	0	0	0	固定資産 P	0	0	0
補助費等	21,727	21,826	99	土地	0	0	0
費用				建物	0	0	0
減価償却費	0	0	0	工作物	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	重要物品	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	244	487	243	インフラ資産	0	0	0
その他	0	0	0	建設仮勘定	0	0	0
小計 D	26,113	24,647	-1,466	その他	0	0	0
地方税	0	0	0	資産の部合計 Q=0+P	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0	流動負債 R	244	216	-28
国庫支出金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
都支支出金	0	0	0	特別区債	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0	賞与引当金	244	216	-28
使用料及び手数料	0	0	0	その他	0	0	0
その他	0	0	0	固定負債 S	2,286	1,489	-797
小計 E	0	0	0	特別区債	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-26,113	-24,647	1,466	退職給与引当金	2,286	1,489	-797
金融収支差額 I	0	0	0	その他	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-26,113	-24,647	1,466	負債の部合計 T=R+S	2,529	1,706	-823
特別費用 小計 K	0	0	0	正味財産の部	-2,529	-1,706	823
特別収入 小計 L	137	0	-137	正味財産の部合計 U	-2,529	-1,706	823
特別収支差額 M=L-K	137	0	-137	負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	0	0
当期収支差額 N=J+M	-25,976	-24,647	1,329				

特徴的事項

◆人件費比率(Y=(W+X)÷D) 令和4年度:16.8% 令和5年度:11.0%

◆新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から令和4年度まで中止となっていたスポーツ交流事業を実施することができたため、物件費(委託料)の支出が発生した。

◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員の賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆B 継続する事業 ◆現状維持

【説明】

◆区民のスポーツの祭典としての大会を開催し、日頃からスポーツ活動を行っている区民がその成果を発揮できる場づくりを今後も継続することで、生涯をとおしてスポーツに親しめる機会の充実を図る。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善

【説明】

◆募集方法および申込方法について、適宜見直ししながら事業を実施する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	品川区スポーツ協会助成金					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	品川区スポーツ協会助成金
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係	地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P36	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツによるまちの活性化を推進する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成 7年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	公益財団法人品川区スポーツ協会に対する助成に関する条例		

2 事業の目的・概要

目的・概要	<p>【目的】</p> <p>◆公益財団法人品川区スポーツ協会の健全な運営と発展を図るため、同協会に対し必要な助成を行い、もって区のスポーツ振興に資する。</p> <p>【概要】</p> <p>◆事務局運営費に対する助成</p> <p>①事務局人件費 ②事務局維持費 ③各連盟助成費 ④ホームページ維持費 ⑤広報事業費 ⑥研修事業費</p>
-------	--

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和 3年度 (2021年度)	令和 4年度 (2022年度)	令和 5年度 (2023年度)	令和 6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
各種スポーツ教室および大会の回数	回	目標	149	166	157	163	170	体育、スポーツおよびレクリエーションの各種教室ならびに大会の開催回数
		実績	79	163	157		令和11年度	
加盟団体への助成件数	団体	目標	29	29	29	31	31	スポーツ振興のため活動するスポーツ協会の加盟団体への助成件数
		実績	22	25	26		令和11年度	
広報誌等の発行回数	回	目標	5	5	5	5	5	スポーティフルライフ(機関紙)および事業のお知らせ(各連盟年間事業計画書)の発行回数
		実績	5	5	5		令和11年度	
功労者表彰受賞者数	人	目標	3	3	3	3	3	品川区スポーツ協会功労賞の表彰を受けた人数
		実績	3	3	3		令和11年度	

取組内容・実績

◆令和5年度の体育、スポーツおよびレクリエーションの各種教室、大会の開催事業では、教室・講座を152回、大会を5回開催し、スポーツおよびレクリエーションの普及・振興を図り、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。

◆スポーツ協会の加盟団体への助成事業では、加盟29団体中26団体にスポーツ振興のための活動資金として899,000円を助成した。

指標の達成状況

◆各種教室および大会の開催回数は例年と大きく変わらないが、幅広い世代を対象とした多種多様な競技の教室および大会を実施し、誰もが気軽にスポーツに親しみ、楽しめる環境を提供した。

◆加盟団体は29団体となり、各団体の活動を通じて、専門性が高く柔軟な執行体制を活かした多様なプログラムサービスを提供した。

◆加盟団体の29団体のうち、助成対象となる事業を実施していない団体には助成を行っていないため、助成団体は26団体となった。

必要性・有効性

◆子どもから高齢者までの区民のライフステージに応じた各種教室や大会を通じて、スポーツに参加する機会と参加者同士が交流する場を提供しており、区民スポーツの推進に大きく寄与している。

◆加盟団体への助成事業を通じて、各団体が広く区民を対象としたスポーツ事業を企画・運営することにより、区民による区民のための事業運営が展開されており、生涯スポーツ・レクリエーションの振興を図る上でも重要な役割を担っている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	0	0	0	0	0.0%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	0	0	0	0	0.0%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	83,204	73,214	0	9,990	88.0%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	83,204	73,214	0	9,990	88.0%

決算額の主な内訳

◆負担金補助及び交付金 73,214千円(公益財団法人品川区スポーツ協会助成金)

効率性

◆9,990千円の不用額は、スポーツ協会の事務局次長に区管理職が派遣され、給与等の支払が発生しなかったことなどにより、人件費に大幅な不用額が発生したことによる。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	12,428	10,792	-1,636
物件費	0	0	0
うち委託料	0	0	0
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	53,321	73,214	19,893
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	731	2,272	1,541
その他	0	0	0
小計 D	66,480	86,278	19,798
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-66,480	-86,278	-19,798
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-66,480	-86,278	-19,798
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	410	0	-410
特別収支差額 M=L-K	410	0	-410
当期収支差額 N=J+M	-66,070	-86,278	-20,208

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	300,000	300,000	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	300,000	300,000	0
資産の部合計 Q=O+P	300,000	300,000	0
流動負債 R	731	1,010	279
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	731	1,010	279
その他	0	0	0
固定負債 S	6,858	6,950	92
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	6,858	6,950	92
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	7,588	7,959	371
正味財産の部	292,412	292,041	-371
正味財産の部 合計 U	292,412	292,041	-371
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	300,000	300,000	0

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和 4年度: 19.8% 令和 5年度: 15.1%

◆令和4年度と比較して、ホームページの改修や人件費の不用額が減ったことなどの影響により、令和4年度比で補助費等の支出が約20,000千円増加した。

◆固定資産には、スポーツ協会への出捐金が計上されている。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆B 継続する事業 ◆現状維持

【説明】

◆身近な地域で区民のライフステージに応じたスポーツに参加する機会・場を提供することにより、区民スポーツの推進を図るとともに、加盟団体への助成事業を通じて、区民による区民のための事業運営を展開し、生涯スポーツ・レクリエーションの振興を図る。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

◆B 継続する事業 ◆現状維持

【説明】

◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	体育館運営経費					
予算科目	会計	一般会計	款	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	運動施設費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係	地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	昭和34年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	品川区立体育館条例、品川区立体育館条例施行規則		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区立体育館の適切な管理運営を行うとともに、区民の健康や体力の維持増進を目的に体育館利用の促進を図る。
【概要】	◆総合体育館・戸越体育館の施設の維持管理 ◆各種スポーツ教室の開催など体育、スポーツおよびレクリエーションに係る事業の運営 ◆区民への施設の貸出業務・利用料金の徴収 ◆区民スポーツ大会への会場提供などを通じた区民のスポーツ・レクリエーションの振興
	※平成18年度より、(公財)品川区スポーツ協会を指定管理者として管理運営を委託

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
体育館の利用件数	件	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	6,000	総合体育館および戸越体育館の時間区分別の各施設の賃切利用件数
		実績	3,433	4,935	4,898		令和11年度	
各種スポーツ教室の参加人数	人	目標	6,000	7,200	7,200	7,200	8,000	青少年教室、初心者教室、高齢者(シルバー)教室、障害者教室およびスポーツ講習会における参加延べ人数
		実績	1,929	6,704	6,743		令和11年度	
フリー利用の参加人数	人	目標	45,100	52,000	52,000	52,000	60,000	総合体育館9種目および戸越体育館12種目のフリー利用における参加延べ人数
		実績	27,499	37,526	45,507		令和11年度	
スポーツの日記念事業の参加人数	人	目標	800	800	800	1,000	1,200	スポーツの日記念事業における参加延べ人数
		実績	0	1,062	910		令和11年度	

取組内容・実績

◆総合体育館は区の総合的なスポーツ施設として、一般貸出とともに多様なスポーツ教室や種目別フリー利用等を実施し、子どもから高齢者まで誰もが活用できる施設として運営し、戸越体育館は地域の身近なスポーツ施設として区民に親しまれるよう運営している。
◆各種スポーツ教室では、バウンドテニスや卓球などの初心者教室や、60歳以上の高齢者を対象としたシルバーピンポン教室等を開催し、幅広い区民ニーズを捉えたスポーツの場を提供している。
◆フリー利用では、曜日・時間帯別に総合体育館9種目、戸越体育館12種目を実施し、個人でも気軽に好きなスポーツを楽しめる場を提供している。
◆スポーツの日記念事業では、区立体育館を無料開放し、誰もが気軽にスポーツを始めるきっかけとなることを目的に様々なスポーツ体験を実施している。令和5年度は、東京2020大会のレガシーとして「オリンピック高橋礼華に学ぶバドミントン教室」を開催した。

指標の達成状況

◆令和5年度のフリー利用の参加者数は45,000人を超え、令和4年度と比べて約8,000人増となり、コロナ禍前の水準に戻ってきた。
◆令和5年度の体育館の利用件数および各種スポーツ教室の参加人数は令和4年度と同水準で推移しており、体育館利用率(会議室除く。)は90%を超えている。
◆スポーツの日記念事業を令和4年度と同規模で開催したが、当日の天候の影響もあり、参加者数は前年度に比べ約14%減となった。

必要性・有効性

◆体育館を利用する子どもから高齢者までが、体育館利用を通じて健康や体力の維持増進が図られる。
◆身近な地域で気軽にスポーツをする機会・場を提供しており、区民スポーツの推進に大きく寄与するとともに、区民相互の交流・親睦の場として機能している。
◆令和3年度からは、品川区をホームタウンとするプロスポーツチーム(フットサル・バスケットボール)が区立体育館をホームアリーナとして公式戦を開催しており、「する」スポーツだけでなく、「みる」スポーツの拠点としても必要性が高まっている。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	36,744	28,196	0	8,548	76.7%
役員費	374	374	0	0	100.0%
委託料	195,567	181,811	0	13,756	93.0%
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0.0%
工事請負費	226,860	208,402	0	18,458	91.9%
備品購入費	4,379	4,054	0	325	92.6%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	463,924	422,838	0	41,086	91.1%

決算額の主な内訳

◆委託料 181,811千円(体育館管理運営事業委託他)
◆工事請負費 208,402千円(総合体育館防災設備更新工事、総合体育館空調設備改修工事他)

効率性

◆令和5年度の利用料金収入は、新型コロナウイルス感染症による施設の利用制限等を行う前の令和元年度額を超え、指定管理運営委託料の抑制につながっている。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	11,600	10,841	-759
物件費	208,871	206,032	-2,839
うち委託料	173,476	173,407	-69
維持補修費	1,562	0	-1,562
行政扶助費	0	0	0
補助費等	0	0	0
費用	60,017	61,125	1,108
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	682	2,272	1,590
賞与退職引当金繰入額 X	24,437	216,806	192,369
その他	307,168	497,075	189,907
小計 D	0	0	0
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	525	525
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	321	317	-4
小計 E	321	842	521
行政収支差額 H=E-D	-306,847	-496,233	-189,386
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-306,847	-496,233	-189,386
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	383	0	-383
特別収支差額 M=L-K	383	0	-383
当期収支差額 N=J+M	-306,464	-496,233	-189,769

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	0	0
収入未済	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	2,853,999	2,792,875	-61,124
土地	1,164,279	1,164,279	0
建物	1,682,305	1,621,959	-60,346
工作物	2,905	2,690	-215
重要物品	4,510	3,946	-564
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	2,853,999	2,792,875	-61,124
流動負債 R	682	1,010	328
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	682	1,010	328
その他	0	0	0
固定負債 S	6,401	6,950	549
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	6,401	6,950	549
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	7,082	7,959	877
正味財産の部	2,846,917	2,784,915	-62,002
正味財産の部 合計 U	2,846,917	2,784,915	-62,002
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	2,853,999	2,792,875	-61,124

特徴的事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:4.0% 令和5年度:2.6%
◆令和5年度に総合体育館において、大規模な空調設備の更新工事を行ったため、その他(投資的経費)の支出が約9倍に増加した。
◆固定資産には、区立体育館の土地、建物等が計上されている。

6 評価

(1) 所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆B 継続する事業 ◆現状維持
【説明】
◆区立体育館の管理運営を適切に行うことにより、身近な地域で区民が気軽にスポーツができる環境を確保するとともに、各種スポーツ教室やフリー利用を通じて、様々なスポーツ活動の機会・場を提供し、区民のスポーツ・レクリエーションの振興を図る。

(2) 最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆C 改善・見直しする事業 ◆手法等の改善
【説明】
◆区民スポーツの重要な活動拠点として、より効率的・効果的な管理運営を行うとともに、フリー利用の参加人数など指標に掲げる目標を達成するためにも、各種スポーツ団体のノウハウを活用した事業展開を図る。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	公園運動施設費					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	運動施設費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係	地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成13年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	品川区立公園条例、品川区立公園条例施行規則		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区民のスポーツ活動の拠点として、公園運動施設の整備・充実を図る。
【概要】	◆公園の有料運動施設等を区民のスポーツ活動の拠点として開放し、施設の利用促進を図る。 ◆しながわ中央公園内でボルダリング場を運営し、子どもたちを中心に新たなスポーツを気軽に楽しめる機会を創出する。 また、パリオリンピック・パラリンピック開催記念イベントを実施するほか、ボルダリング教室を実施し、競技の普及・啓発を図る。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
公園運動施設利用件数 (団体利用)	件	目標	39,025	33,100	36,053	40,000	40,000	野球場・庭球場・サッカー場等の団体利用件数
		実績	32,024	33,268	34,165		令和11年度	
公園運動施設利用件数 (個人利用)	件	目標	16,440	22,100	34,651	30,000	32,000	弓道場、スケートボード場、ボルダリング場、しながわ区民公園プールの個人利用件数
		実績	19,594	19,588	24,857		令和11年度	
ボルダリング場利用件数 (個人利用)	回	目標			3,000	3,000	4,000	ボルダリング場の個人利用件数
		実績			2,624		令和11年度	
		目標						
		実績						

取組内容・実績

◆公園運動施設を区民のスポーツ活動の場として、野球・テニス・サッカー等の利用団体および個人に対して開放し、予約管理等を行った。また、区が主催する大会等の会場としても貸出を行い、区民のスポーツ活動の拠点となるよう、施設の利用促進を図った。
◆令和5年4月にしながわ中央公園ボルダリング場をオープンし、競技の普及・啓発および施設のPRを目的に、オープニング記念イベント・体験会を実施したほか、初心者を対象としたボルダリング教室を年10回開催し、延べ125人が参加した。
◆令和5年8月にしながわ区民公園子どもサッカー場をオープンし、子どもサッカー専用の団体登録制度を新設し、抽選申込等の運用を開始するなど、子どもが継続的にスポーツに親しめる環境の充実を図った。
◆令和6年度の施設予約システムのリニューアルに伴い、オンラインクレジットカード決済を導入するなど、これまでの運用方法の一部見直しを図り、利用者の利便性向上の実現に向けて、関係部署と調整を行った。

指標の達成状況

◆団体利用は、令和4年度と比べると改修工事により開放を休止する施設は少なくなったが、しながわ区民公園の改修工事が長期間にわたったため、利用件数は微増となった。
◆個人利用は、新たにオープンしたボルダリング場の利用が想定より伸び悩んだことから、目標と実績の件数の差が大きくなったが、しながわ区民公園屋外プールの定員をコロナ前の水準(定員500人)に戻したことで、しながわ区民公園屋外プールの利用が4,000件以上増加し、令和4年度と比べると全体の利用件数は1.2倍以上増加した。

必要性・有効性

◆品川区内で野球・テニス・サッカー等、屋外でスポーツができる施設は限られており、区民からの需要も高く、区民がスポーツ活動を行う拠点としての必要性は高い。
◆ボルダリングは、東京2020大会で初めて採用されたアーバンスポーツの1つであり、子どもたちを中心に新たなスポーツを気軽に楽しめる施設として開放することは、区民が様々なスポーツに親しむ機会・場を提供することにつながり、必要性・有効性が高い。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	1,324	962	0	362	72.7%
役員費	21	5	0	16	23.8%
委託料	15,548	15,430	0	118	99.2%
使用料及び賃借料	1,300	1,293	0	7	99.5%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	180	35	0	145	19.4%
計	18,373	17,726	0	647	96.5%

決算額の主な内訳

◆委託料 15,430千円(しながわ区民公園屋外水泳場管理運営委託他)

効率性

◆一部科目の執行率は低くなっているが、全体の執行率は96%超と高く、適正かつ効率的に執行している。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	10,771	12,535	1,764
物件費	16,298	17,691	1,393
うち委託料	14,751	15,430	679
維持補修費	0	0	0
行政扶助費	0	0	0
補助費等	75	35	-40
費用	0	0	0
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	633	2,597	1,964
その他	51,177	0	-51,177
小計 D	78,954	32,858	-46,096
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	13,206	0	-13,206
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	67,550	17,579	-49,971
その他	16,000	0	-16,000
小計 E	96,756	17,579	-79,177
行政収支差額 H=E-D	17,802	-15,279	-33,081
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	17,802	-15,279	-33,081
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	355	0	-355
特別収支差額 M=L-K	355	0	-355
当期収支差額 N=J+M	18,157	-15,279	-33,436

②貸借対照表

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
流動資産 O	0	178	178
収入未済	0	178	178
不納欠損引当金	0	0	0
その他	0	0	0
固定資産 P	0	0	0
土地	0	0	0
建物	0	0	0
工作物	0	0	0
重要物品	0	0	0
インフラ資産	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0
その他	0	0	0
資産の部合計 Q=O+P	0	178	178
流動負債 R	633	1,154	521
還付未済金	0	0	0
特別区債	0	0	0
賞与引当金	633	1,154	521
その他	0	0	0
固定負債 S	5,943	7,942	1,999
特別区債	0	0	0
退職給与引当金	5,943	7,942	1,999
その他	0	0	0
負債の部合計 T=R+S	6,577	9,096	2,519
正味財産の部	-6,577	-8,919	-2,342
正味財産の部 合計 U	-6,577	-8,919	-2,342
負債及び正味財産の部合計 V=T+U	0	178	178

特徴事項

◆人件費比率 (Y=(W+X)÷D) 令和4年度:14.4% 令和5年度:46.1%
◆令和4年度はボルダリング場の設置工事を行ったため、工事実施に係る各項目(行政費用におけるその他経費、行政収入における都支出金・その他経費)を計上したが、令和5年度は皆減となった。
◆令和5年度は新規事業としてボルダリング教室を実施したため、令和4年度比で物件費(委託料)が増加した。

6 評価

(1)所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆B 継続する事業 ◆現状維持
【説明】
◆公園運動施設の利用率は、庭球場では約90%と非常に高く、全体でも約70%となっており、区民のスポーツ活動の拠点として重要な役割を果たしている。今後も、更なる利用拡大を図り、身近なスポーツ活動の場として開放していく。
◆しながわ中央公園ボルダリング場について、ボルダリング教室等を通じて、施設の利用促進および競技の普及・啓発を図る。

(2)最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】
◆B 継続する事業 ◆現状維持
【説明】
◆所管評価に同意する。

令和 6年度 事務事業評価シート (令和 5年度実施事業)

小事業名	施設予約システム管理経費					
予算科目	会計	一般会計	歌	総務費	項	地域振興費
	目	スポーツ推進費			事業	施設予約システム管理経費
担当部署	文化観光スポーツ振興部	担当課	スポーツ推進課		担当係	地域スポーツ推進係

1 基本情報

長期基本計画	P37	政策の柱	学びとスポーツの楽しさが広がる環境づくり
		基本的な考え方	生涯学習・スポーツの環境を充実する
総合実施計画		実施計画事業	—
		現況	—
		必要事業量	—
事業期間	平成14年度 ~	関連する個別計画等	品川区スポーツ推進計画
根拠法令要綱	品川区施設予約システムの利用者登録に関する規則		

2 事業の目的・概要

【目的】	◆区施設の利用者の利便性向上を図るため、施設予約システムを運用する。
【概要】	◆施設予約システムを利用し、区施設の利用者管理・予約管理を行う。

3 事業の実績・課題

指標名	単位	区分	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	目標 (達成年度)	指標の定義
品川区施設予約システムの利用施設数	施設	目標	55	55	58	200	令和11年度	スポーツ推進課にて管理・運営している施設における品川区施設予約システム利用施設数
		実績	55	55	58			
		目標						
		実績						
		目標						
		実績						

取組内容・実績

- ◆施設予約システムを利用し、インターネットからの予約受付や抽選申込み等を行い、各施設における予約情報等の管理を行っている。
- ◆令和6年度の施設予約システムのリニューアルに合わせて、学校施設(区内46校)の予約情報等のシステム管理を開始するため、各学校にアンケート調査等を実施した。

指標の達成状況

- ◆施設予約システムを利用している58施設について、予約管理等業務を実施した。

必要性・有効性

- ◆施設予約システムは、各施設の空き状況等を公開しているほか、団体登録をしている利用者はインターネットからの抽選申込み・空き予約ができるなど、利用者の利便性向上には必要不可欠なものである。

4 予算・決算(概要)

(千円)

予算科目(節)名	予算現額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
需用費	100	74	0	26	74.0%
役員費	0	0	0	0	0.0%
委託料	0	0	0	0	0.0%
使用料及び賃借料	1,815	1,815	0	0	100.0%
工事請負費	0	0	0	0	0.0%
備品購入費	0	0	0	0	0.0%
負担金補助及び交付金	0	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0	0.0%
計	1,915	1,889	0	26	98.6%

決算額の主な内訳

- ◆需用費 74千円(プリンタ用トナーカートリッジ購入経費)
- ◆使用料及び賃借料 1,815千円(品川区施設予約システムサービス利用料)

効率性

- ◆執行率は98.6%と高く、施設予約システムサービス利用料は、各所管で管理している施設数に応じて案分して支出しており、適正かつ効率的に執行している。

5 財務情報

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	4年度(A)	5年度(B)	差額(B-A)
給与関係費 W	2,486	6,438	3,952
物件費	4,695	1,889	-2,806
うち委託料	2,904	0	-2,904
維持補修費	0	0	0
扶助費	0	0	0
補助費等	0	0	0
減価償却費	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0
賞与退職引当金繰入額 X	146	1,298	1,152
その他	0	0	0
小計 D	7,326	9,625	2,299
地方税	0	0	0
特別区財政調整交付金	0	0	0
国庫支出金	0	0	0
都支支出金	0	0	0
分担金及び負担金	0	0	0
使用料及び手数料	0	0	0
その他	0	0	0
小計 E	0	0	0
行政収支差額 H=E-D	-7,326	-9,625	-2,299
金融収支差額 I	0	0	0
通常収支差額 J=H+I	-7,326	-9,625	-2,299
特別費用 小計 K	0	0	0
特別収入 小計 L	82	0	-82
特別収支差額 M=L-K	82	0	-82
当期収支差額 N=J+M	-7,244	-9,625	-2,381

特徴的事項

- ◆人件費比率(Y=(W+X)÷D) 令和4年度:35.9% 令和5年度:80.4%
- ◆施設予約システムリニューアルに伴う構築業務が発生したため、行政費用における給与関係費が令和4年度比で2倍以上に増加した。
- ◆令和5年度は施設予約システム改修作業を実施しなかったため、行政費用における物件費(委託料)は皆減となった。
- ◆流動・固定負債には、翌年度以降支出することが見込まれる職員賞与・退職給与のうち当年度末時点の発生額を計上している。

6 評価

(1)所管評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆A 拡大する事業 ◆対象・規模等の拡大

【説明】

- ◆施設予約システムを利用することで、一元的に予約情報等の管理を行うことが可能となり、区施設を利用する区民等の利便性の向上も実現できる。また、令和6年度の施設予約システムのリニューアルに合わせて、新たに学校施設を管理対象施設に追加するとともに、オンラインクレジットカード決済を開始する予定であり、今後、さらなるDXの推進に取り組んでいく。

(2)最終評価

【評価結果・今後の取組の方向性】

- ◆B 継続する事業 ◆現状維持

【説明】

- ◆令和6年度の施設予約システムのリニューアルに合わせて、引き続きオンライン決済の導入など区民の利便性向上に努める。